

# 水学園だより

独立行政法人水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 独立行政法人の組織見直し について

理事長 鷲尾 圭 司



水産大学校は独立行政法人になって11年目を迎えています。少子化の中ではありますが、定員を超える学生が集い、入試倍率は4.5倍、就職率も95%（23年3月）という実績を上げております。しかも、不況といわれる水産業界にその80%が進路を得ていることは、水産人育成という本校

の役割を十分に果たしているところであり、関係者の皆さんの努力と関連業界に進まれた先輩方によるご支援の賜物と頭が下がります。

昨年は東日本大震災や原発事故など、世を揺るがす大事件が相次ぎました。その中であって4月には被災地に耕洋丸を派遣し、支援に赴いた学生たちが現場できびきびと働き、深い思いと誇りを抱いて帰ってきてくれたことは、本校の人材育成への取り組みを高く評価していただく事例となりました。

さて、水産大学校は平成13年度より、それまで農林水産省の組織であったものが独立行政法人として改組されましたが、これまで一貫して、水産業およびその関連分野に有為な人材を送り出すべく教育・研究の充実に努めて参りました。

本年1月の報道などでも御承知の通り、独立行政法人に関しましては、昨年秋から政府行政刷新会

議・与党民主党において組織の見直しが検討されておりましたが「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」が閣議決定されました。その中で、本校につきましては、農林水産省所管の（独）水産総合研究センターと一体となった新組織に移行することが盛り込まれたところです。

具体的には、①本校が持つ人材育成機能と、水産総合研究センターが持つ研究開発機能をより拡充させた新たな法人を設置すること、②その際は、人材育成機関、研究開発機関それぞれの組織の自立性、意思決定の独自性に配慮しつつ、本校においては、その名称、立地（下関市）、施設を維持すること、といった内容となっております。従って、現在の教育体制の基本的な変更や、教育カリキュラム・取得可能な資格等の見直しを伴うものではなく、現在の在校生や来年度新入生に対して実施する教育も従来通り担保されるものです。

今回の見直しでは、本校の実績が評価され、本校の存在意義があらためて認められる形で改組されることになったと考えております。また、水産総合研究センターの研究開発機能との連携が強化され、一層充実した教育が推進できるものと考えております。

新法人の設置時期につきましては、本校の在校生への影響を考慮することとされており、直ちに改組されるのではなく平成26年度以降となりますが、今回の見直しを契機として教育機能をさらに向上させ、水産分野への人材供給という本校の役割を今後とも全うして参りますので、関係各位のご理解の程何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本校へのご理解とご支援をお願いするとともに、皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

## 最近の話題

### 着任のご挨拶

水産流通経営学科 助教 小竹 直 樹

昨年4月1日付けで水産流通経営学科に着任いたしました小竹直樹と申します。私の専門は体育学であり、共通教育科目である体育実技および体育理論を担当しております。

水産大学校のカリキュラムに体育科目が含まれていることに驚かれる方は多く、その存在意義については特に新入生が疑問を持つようです。大学における体育科目の存在意義は、体力的にピークを迎え、かつ成人として自律を始める大学生時に、自らの心

身の健康に対する関心を高めること。そして自らの健康を維持・増進していくために必要な知識とその実践方法を習得することにあります。生活習慣病の危険性が叫ばれて久しく、2008年4月には特定健康診査・特定保健指導（通称：メタボ健診）も始まりました。もはや医療にばかり頼ることはできません。各個人が自ら疾病予防に努めることが求められているのです。『自分の健康は自分で守る』次世代を担う社会人として必要なこの素養を、各学生がしっかり習得できるよう教育に努めております。

未だ自らの授業に対する反省と改善を繰り返す毎日ですが、早くも本校での1年が過ぎます。この1年、担当科目の他に海技実習、さらには耕洋丸での



乗船実習にも携わる機会を頂きました。学生は海技実習にてカッターの漕艇や隊列を組んでの遠泳を、そして乗船実習においては船内での規律ある共同生活や航海当直を経験します。それぞれ1週間程度の実習ですが、実習を通して学生は格段に

成長します。少なくとも私にはそのように見受けられ、これぞ水産大学校の教育における特長の一端なのだ学びました。これまでに得た本校ならではの経験を手掛かりに、現在は水産大学校における体育教育の在り方を自問自答しております。

こちらに赴任する前は、体育学系の大学院にて健康と運動について学んだ後、工学系の大学院にて生体の計測に用いられるセンサの開発に取り組んで参りました。これまで取り組んできたいずれの課題も水産とは縁遠い課題ではありますが、こうして本校にて教育・研究に携わる機会を得たので、分野の枠に囚われることなく、水産大学校の特色を活かした教育・研究に注力して参りたいと意気込んでおります。

着任から約1年が経過し、歴史と伝統を誇る本校にて水産人を育てることへの責任の大きさを改めて感じ、身の引き締まる思いがいたします。水産大学校の発展、そして何より学生の教育に努めて参る所存ですが、何かと至らぬ点もあるかと思われます。今後も皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## San Fernand(サン・フェルナンド)に行ってきました

海洋生産管理学科 教授 宮地 邦明

San Fernand、同名の都市が世界中で24か所も存在するようですが、この度訪問した街は比国、ルソン島の西海岸に位置し、首都マニラから北に車で6時間超の地方都市です(地図参照)。

本校は2005年からSEAFDEC(東南アジア漁業開発センター)が実施する国際共同調査に練習船を派遣してきました。2011年度は比国との共同調査を耕洋丸第29次実習航海の途次を実施することになり、宮地と川崎准教授、濱名研究生がSan Fernandで乗・下船することになった次第です。

私ども3名は、2011年11月6日に福岡空港からマニラに飛び、翌日の午後にSan Fernandに入り、歓迎会に臨みました。



歓迎会は、比国水産庁の共同調査統括責任者であるAlma女史、当地に所在する水産研究所支所長、港湾関係者らを含め50名ほどを招いての盛大な催しです。学生たちが交代

でホスト役を務めてくれたおかげで和やかな夕べとなりました。

9日に出港、調査開始です。ここで外国人メンバーを紹介しておきます。まず、比国研究者ラファエロ(チームリーダー)、フランシス(魚類学)、ジュニー(海洋化学)、ローダ(プランクトン)、ネス(海洋物理)の5名で、後者3人が女性です。それにビンズ(監視員:比国海軍中尉)とツァイサク(SEAFDEC事務局長:タイ人)を加えた7名です。

調査は、最新の機器を用いての海底地形精密調査、海洋観測、プランクトン採集、中層トロール操業です。これらの調査を学生と調査員さらに監視員らも加わって明るい雰囲気の中で実施することができました。その際、学生らは調査員から各観測や採集生物についての説明を受ける等、良い勉強になったと思います。

また、San Fernandに帰港する前日(19日)には外国人チームによる講義が行われ、それぞれの専門分野に関する発表・解説がありました。講義は全て英語で行われましたが、学生たちは真剣に耳を傾け、苦勞しながらも英語による質問をしていました。

学生たちの多くが初めての外国体験です。着岸中には街や人の営み、歴史等に触れることもあったと思います。しかし、何よりも言語・習慣の異なる異国の人たちと生活を共にし、協力して調査を行ったことは極めて貴重な体験と言えます。「経験は最良の教師である」との金言がありますが、学生たちにはこの度の経験を活かし、それぞれの人生を切り開いて欲しいと思います。社会人となった彼らが世界中のSan Fernandを駆け巡って活躍する姿をみたいものです。



## 着任のご挨拶

海洋機械工学科 助教 植田 貴宏

平成23年4月1日付けで海洋機械工学科船用機



関学講座に助教として漁業練習船天鷹丸より配置転換で着任いたしました植田貴宏と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成12年機関学科専攻科を卒業後、水産庁に入庁し、約二年の船舶予備員を経て、平成15年、旧船耕洋丸(1988トン2794KW)に三等機関士として着任し、その後、平成18年から新船耕洋丸建造、新船耕洋丸(2352トン3900KW)、天鷹丸(716トン1618KW)でのエンジニアとしての業務、併せて海事教育職員として水産系船舶機関士に必要な基礎知識と技術など将来の水産業に寄与する人材の育成という本校の教育理念に基づき、学生指導に日々精進して参りました。その中でも特に深い思い出は現在の4代目耕洋丸(2352トン3900KW)の建造でした。船という構造物はホテルと発電所などがコンパクトにまとまったプラントであり、ましてや大海原を時化の中でもビクともせず走り続けるディーゼル機関を搭載しております。その当時私は三等機関士として、電気機器全般、照明機器や、冷凍、空調設備その他補機などの担当をしており、生活の中において必要不可欠で24時間衣食住に関わる機械関係、まあ地味で船の主役ではないが目立たないけれども一番みなさまからクレームを言われるところなので細心の注意を考慮しつつ、造船所の現場監督・設計技士、メーカー設計者等との綿密な打合せや修正など結構いろいろありましたが、自分の長い人生の中でこのようなすばらしい経験を若い時期に携わることができたことは幸せだと今でも思っております。

このたびの配置転換により海洋機械工学科所属となり早1年が過ぎようとしております。前期の授業が終わったと思いきやすぐ夏の海技実習、田名臨海実験実習場での海洋機械実習、海響館でのオープンラボ、オープンキャンパス、水産高校との高大連携とイベント盛りだくさんで、他の先生方に迷惑ばかりおかけしまして恥ずかしいばかりでした。

昨年の3月11日に発生した東日本大震災では未曾有の被害をもたらし、多くの皆様が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。学生諸君には「シーマンシップ」の言葉に込められた“心がけ”を忘れずに今後の日本の復興に日々精進してもらいたいです。

まだまだ経験不足の若輩者ではございますが、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 食品科学科の就職指導

食品科学科 教授 原田 和樹

平成25年卒業の学生(現3年生)が、平成23年12月1日をもって、新卒採用の就職活動が解禁になったことは、すでに皆様もご存知と思います。食品科学科の全教員は、現3年生の就職活動の指導と

して、さまざまなことを行っております。

例えば、学生自身による自己PR文の作成というのがあります。簡潔に自分をPRする文章を書く訳ですが、ダラダラと書いたらよいという訳ではありません。膨大なエントリーシートの中から、企業の人事の人にピックアップされようと思えば、自己PR文をコンパクトに書き、しかも、それがキラリと光った文章でないといけません。

食品科学科では、自分の研究室に卒業研究で配属される予定の学生の自己PR文の指導を、各教員が毎年行っています。その指導内容は、400字以内で、「企業が望む人間像に合致する長所を述べているか?」で、学生が自分の長所と思っていることでも、企業から見たら、長所でも何でもないという内容があります。また、「具体的な事例でPRされているか?」です。自分に根性があることを、単に「私は根性があります」と書かずに、例えば、「私は、大学の100キロ歩行を寝ずに歩き続け、優勝したことが最大の思い出です」のような記述が必要なのです。次に、自己PR文の内容で、「目指していることに、社会性があるか?」です。「この仕事が好きだ」という自分の興味だけが書かれていては駄目で、目指している内容が、社会への貢献を含まないと、企業の人の心に響きません。

勿論、学生達は、最初から、そんな立派な文章を書いて来ることが出来ませんので、教員が丁寧にヒアリングをし、上記の観点で添削する訳です。私の例で言いますと、今年は、研究室のパートナーの和田律子講師と8人の研究室配属予定の3年生に添削をしましたが、一人平均6回の添削を行いました。このくらいの添削回数は、普通です。

一方、就職活動で、最近、注目を集めているのが、グループ討論です。これも、食品科学科の全教員の取り組みで、現4年生から始めて、以来、ほぼ週に一回の割で行っています。グループ討論とは、企業が就職希望者を選抜する上で、よく行う方法です。応募者を少人数のグループに分け、テーマをその場で与え、1時間弱のディスカッションをさせることにより、各自の本当の能力を見極めようとする方法です。ここでは、企業から、対人能力と個人能力が判定されます。グループ討論では、勿論、司会というリーダーの役割を果たすのがベストですが、他の



現3年生のグループ討論会のトレーニングの様子



現3年生への芝恒男学科長による企業紹介

役割の学生もしっかり見られています。過度の自己主張をしていないか。自己主張ができればよいというものではありません。意見に論理性が欠けてないか。時間感覚は正常か。その場で決めた決め事を守っているか。笑顔であるか。気弱でないかなどなど、企業の人は、厳しく査定をします。

その場に出されるテーマは、難しいか、または、虚を突かれる内容が多く、水産大学校でのグループ討論のトレーニングでは、教員も模擬テーマの出題に苦労します。「震災から随分と時間がたつが、今なお残る問題は何か、それを解決するにはどうしたらいいか」、「若年層の魚離れについて我々がとるべき行動は何か」、「AKB48を参考にして、食品科学科でNFU (National Fisheries University) 48を結成した場合、世間にPRする方法を議論せよ」などなど、硬軟取り混ぜて、学生達を鍛えております。

その他、芝恒男学科長から、水産加工関連の企業の紹介があったり、1年生や2年生に対しては、プロのマナー教室の先生を呼んで具体的にマナーの練習をしたり、企業の常務取締役に来て頂いて、「企業が求める人材像」という演題で講演会を行っています。また、3年前から、3年生前期必修の授業の「魚餐とビジネス」で、水産加工分野の企業の社長さん方に来て頂いて講義も続けております。

## 生物生産学科3年生講座外実習 「水産施設調査」について

生物生産学科 講師 半田 岳 志

平成23年11月7日から13日まで、生物生産学科3年生対象の講座外実習「水産施設調査」を行いました。この実習は、水産物の生産基盤となる増養殖施設、研究施設、加工施設、流通施設などを見学調査し、現場の概要、問題点及びその解決努力などの説明を受けることにより、特に増養殖に関する水産業の現状について理解を深め、講義等で得た知識をより確かなものとする事を目的に実施しています。そこで、平成23年度は、山口県水産研究センター外海研究部、社団法人山口県栽培漁業公社山口県内海栽培漁業センター、下関市栽培漁業センター、樫野川漁業協同組合、株式会社オオノ、以上5機関を

実習先として選定し見学・調査を行いました。

山口県水産研究センター外海研究部では、海洋観測・資源調査の結果から水質や水産資源の現状と将来予測を行い、環境に応じた水産価値の高い水産生物の増殖に関する取り組みが紹介されました。特に、新しい増殖対象として海産魚類ではキジハタやアマダイを、海藻類ではアラム、カジメおよびクロメの採苗から藻場造成に関する研究とその施設について見学・調査しました。山口県内海栽培漁業センターでは、ヒラメ、トラフグ、アカガイおよびアサリなどの魚貝類の種苗量産と技術開発について紹介されると同時に、それらの業務を行うための組織体系についての説明がなされ、種苗生産の高効率・省力化を実現する施設や種苗生産に不可欠な餌料生物の最新の培養方法等について調査しました。下関市栽培漁業センターでは、クルマエビ、ガザミ、アカウニおよびクロアワビを中心とした水産無脊椎動物の種苗生産と中間育成に関わる大規模採苗施設を見学し、種苗の中間育成や種苗放流に至るまでのコスト算出を行うと同時に、漁業者ニーズに合う対象種の選定とその生産方法について調査しました。樫野川漁業協同組合では、内水面養殖の主力魚種であるアユの採苗、中間育成、放流、漁場・釣場の造成管理、保護水面の管理、産卵場の管理など多岐にわたる業務が紹介され、健全な増養殖環境の整備・管理の重要性について見学・調査しました。株式会社オオノ(広島県廿日市市)では水産研究センターから提供

山口県水産研究センター外海研究部でのアラム増殖の見学



山口県内海栽培漁業センターでの餌料プラント大量培養の見学



樫野川漁業協同組合のアユ種苗生産・養殖施設の見学





下関市栽培漁業センターの  
クロアワビ種苗生産施設の  
見学



株式会社オオノのマガキ  
加工施設の見学

される環境情報から、マガキ種付けの海域選定やマガキを食品として出荷するまでの厳密な衛生管理方法と販売までの一貫生産施設を見学しました。

各実習先に水産大学校の卒業生が多いこともあり、実習学生は熱心に調査し活発な質疑を行いました。学生は、各機関の組織形態や業務、水産の現場で生じる諸問題に対する取り組みを学んだだけでなく、講義等で得た知識をより確かなものとし、就職活動を開始・実施していく時期に水産業への熱意をさらに高める事が出来たと考えております。

## 着任のご挨拶

天鷹丸三等機関士 今屋 豪

はじめまして、本年度4月1日付けで天鷹丸三等

機関士として着任いたしました今屋豪と申します。昨年度の専攻科修了後すぐに機関士としてこの任務に就かせて頂きました。まだまだ分からない事ばかりですが、天鷹丸の乗組員の方々や学校の先生方にご指導頂き試行錯誤を繰り返しながら毎日をごしております。



本年度は専攻科の学生達とパラオ、ボンペイへ遠洋航海に行っていました。そこで学生たちの生き生きとした好奇心に溢れた表情を間近で見ることができ、自分も昨年度までは学生として乗船し友人達と協力しながら行った実習や、初めて見るパラオの珊瑚の海の美しさ、水の透明度に感動したことを思い出しました。私はこれからも学生の指導や様々な寄港地でこういった経験をする事が幾度もあると思いますが、学生にとっては乗船実習で経験するのが唯一の機会かもしれないと思うと一回一回の航海を学生の心に焼き付ける有意義なものにしていかなければならないという責務を感じております。

私は学生の皆さんと年齢が近いですし、卒業して間もないので学生たちの気持ちがよく分かると思います。このようなことから、何でも気軽に相談してもらえたらと思っております。と言いましても、未熟な私にできるアドバイスは限られておりますが、学生達が卒業後、第一線で活躍するときに私の伝えた事が何か一つでも役に立てば、これほどやりがいのある仕事はないと考えております。

これからも新しい学生達との出会いがあると思いますが、初心を忘れず前向きに日々機関士として勉強していきたいと思っておりますので、今後とも何卒、宜しくお願い申し上げます。

## 就職活動

### 就職活動を終えて

水産流通経営学科4年 千葉 崇広

私が就職活動を意識したのは、4年生になる直前の1月に本校であった合同企業説明会からだ。それまで私は、漠然と公務員試験の勉強をするだけで履歴書の書き方や面接の練習などは一切行っていなかった。そのため、就職活動を本格化させる時には何から手をつけていいか分からなかった。とりあえず、来校して説明会を実施して頂く企業を受けてみたり、大手就職サイトで登録した個別説明会に参加したり、地方公務員を受けてみたりしたが、試験を受けては落ちる日々が続くだけだった。

そのような中で、水産関連団体への就職内定を手にした友人から、当該団体での面接試験の際に「流通系に強い人材がほしい」と言っていたという話を聞いた。それならば水産流通経営学科である私にもチャンスがあるのではないかと思い、その同じ水産関連団体に飛び込みで電話をかけてみたところ、面

接をしてもらえることになった。結果、その面接で就職内定となった。

私たちの年代は、就職活動の真っ只中に東日本大震災があったことで、例年にも増して厳しい状況となった。しかし、私の例でも分かるように、何がチャンスとなるか分からない。次に続く後輩諸君も逆境に負けないでひたむきに就職活動に取り組んでもらいたい。(内定先：福井県漁連)

### 就職活動を終えて

海洋生産管理学科4年 飛驒 剛志

私は就職活動をする前に、水大での経験を活用できる職業であり、そしてその職業についている自分の姿を想像できるか、ということを考えました。

私には福井県で漁師をする叔父がおり、その手伝いをした経験から水産の現場に興味をもつようになりました。叔父と大学での講義や実習によって得た漁業の話を重ねるうちに、漁業者と密接にかかわる仕事に就く自身を想像することができるようになり

ました。このため就職相談を叔父にしたところ、福井県漁業協同組合連合会で、新卒採用があることを知ることができました。

漁業協同組合連合会とは、漁協の連合会であり、漁獲物の流通、魚の消費拡大のためのキャンペーン実施や、漁業権、漁獲規制などを巡る県内の権益調整等を行政と連携して行う組織です。大学で学んだ漁業権や漁獲規制、資源保護の知識及び乗船実習や漁業調査で得た経験を活かせる職場であるため応募し、内定を頂きました。

今年の就職活動は、東日本大震災の影響により、就職時期の遅れや内定取り消しなどが報道されるなど厳しい状況でありました。今後も就活生には厳しい状況が続くと思いますが、自分の想像する将来の姿が実現できるよう皆さんも就職活動を頑張ってください。

## 就職活動において

海洋機械工学科4年生 岩佐拓毅

就職活動、それは人生の分岐点であることは間違いありません。

その分岐点を上手く切り抜けるには、早めの準備が重要です。どんな準備かというと、自己分析です。つまり、今まで生きてきた20年少しの人生を振り返り、どんな状況でどう考え、どう行動し、何を頑張ってきたか。

過去にどんな凄いことをしていても、それを伝える能力、それを強みに持つ自信がないと企業の方にはわかりません。面接では自分の強み弱みをしっかり理解し、自分の悪い部分を含めてまるごと自分を好きになれる人が説得力のある発言をしていると感じました。

私は、日阪製作所に内定を頂きましたが、面接で自分が伝えなかったことはすべて伝えつもりです。もちろん予想もできないような質問を問われることもありましたが、その時、焦る自分も困る自分も支えてくれるのは過去の自分の体験や経験でした。

自己分析は、地味で面倒だと思われるかもしれませんが、しかし、自分の過去が自分の分岐点で味方してくれると思うと少しは考えが変わりませんか？

この就職活動というタイミングで一度、人生を振り返るのも悪くはありません。

どんな状況でも、それに対応していく準備を怠らないことが大切です。

それを忘れないよう妥協せず、周りに影響されず、自分らしい就職活動をし、自分に合った企業を選んでください。

## 納得いく就職活動を

食品科学科4年 尾口拓也

後輩のみなさんの役に立てればと思い、私の就職活動を振り返ってアドバイスを中心に書かせていただきます。1つの経験談として参考程度に読んでください。

「就職活動」といっても、まだ会社の選考が始まっていないとき、何をやればいいのか分からなかった

ため、私はSPI対策本を1月までに1冊済ませました。あとは自己分析、企業研究、面接対策に時間を費やしました。SPI対策はやらない人もいますが、面接前に落とされるのは悔しいので私はやりました。

自己分析は1番重要で大変だと思います。自分の長所や短所、頑張ったことや失敗したことなどをしっかり振り返ることで、面接のできも変わってくると思います。

次に面接で私が注意したことについて書きます。心がけたことは5つあります。「元気な声」「笑顔」「目線」「はっきり言い切る」「反応」です。これらはすべて「印象」に関わることだと思います。面接時間15分程度で判断しなければならない採用担当者からしてみれば、言っている内容も重要ですが「印象」が大きく合否に関係するのではないかと思います。

最後に、就職活動は結構落ちるので辛いですが、常に前向きに・プラスに考えましょう。自信をもって堂々と面接に挑んでください。みなさんも納得して就職活動が終えられるよう本気を出して頑張ってください。

## 自分を考える

生物生産学科4年 坂本龍亮

「就職活動が終わったら大好きな焼肉を腹一杯食べに行こう！」と考えながら行ってきた私の就職活動と、それらを通して感じたことを述べさせていただきます。

学内では、3年生の12月頃から、就職活動に関する情報が飛び交うようになります。「情報はしっかり自分の中で咀嚼し、理解してから決断する。」というのが持論だった私は、就職について考えている間に、世間一般の就職活動の波に乗り遅れてしまいました。周りの人たちが様々な企業の訪問に行ったり、エントリーしたりと目まぐるしく活動していた頃、私はひたすら自分がどういう人間なのかということを考えて続けていました。

2ヶ月ほど自分の将来について考え抜いた末に、地元の石川県庁と漁業協同組合などの団体を受けることに決め、全力投球した結果、8月下旬に県庁水産課から内定を頂きました。もちろん志望が定まっていたから、試験勉強も頑張りましたが、長い期間自分自身について考え、適した活動スタイルや職業種を見極めたことの方が、活動中の自信になったことが多いように思います。

自分を考え、自分を知るということは当然のことではありますが、面接の技法など小手先のものよりもはるかに大事なことだと思います。そういった当たり前のことを軽視せず、明確な意志を持って就職活動に臨んで欲しいと思います。

## 就職活動について

専攻科船舶機関課程 戎野亜里紗

私は、船舶機関士としての職を希望していましたが、女性であることと、2年間休学し海外にホームステイしたことによるブランクの影響が心配でした。

また3年次、学校で行われた合同企業説明会で女性の海事職の募集は無いといくつかの会社に言われた記憶もあり、そう簡単にはいかないと覚悟を決めていました。

4年次の企業説明会では、そのことが頭にあり、なかなか企業のブースに積極的に行けなかったところ、担当の先生から日本海洋事業では機関士と航海士ではまだ女性職員の採用例は無いが、採用に前向きであると伺いました。日本海洋事業のブースでは、私が海外に長期間滞在していたことで英会話が得意な点を高く評価していただき、女性であっても船舶職員としての採用に問題はないと仰ってくださいま

した。これまで練習船での乗船実習において、海洋観測や漁業調査を体験し海洋調査という業務に興味を抱き、海洋調査関係の企業への就職を希望していたため、日本海洋事業は望み通りの会社でした。

その後、4年次3月の就職試験では、面接の際、英語で1分間スピーチして下さいと言われ、驚きましたが何とかやり遂げることができ無事に内定をいただくことができました。

就職活動において大切なのは、まず自分のアピールポイントを1つつくこと、そして自分だけで考えず相談することです。これから就職活動に望む方もそこを忘れずに頑張ってください。

## 大 学 祭

### 海燕祭をおえて

2011年大学祭実行委員長 海洋生産管理学科3年  
中 川 国 彦

私たち大学祭実行委員会が活動を始めたのは昨年4月からでした。当初、同年3月に発生した東日本大震災により、海燕祭（大学祭）を開催することを悩んでおりました。しかし、本校の伝統の一つである海燕祭には、本校が所在する下関市吉見地域の方々と学生がともに手を取り合い、活気あふれる吉見地域にしようという思いも込められていることから、吉見地域からも海燕祭を通して日本を元気にしていこうという実行委員会の強い意志のもと、10月8日～9日に開催しました。

今年度の海燕祭のサブタイトルは、東日本大震災の被災地からは離れた本校ではありますが、被災された方々の復興への願いを込めて、水平線上の日出時などに太陽光が緑色に見える瞬間を意味し、これを見た人は希望が叶い幸せになれるといわれている“Green Flash”としました。

海燕祭開催までの期間は、開催準備ばかりでなく、下関地域の様々なイベントや支援活動のボラン

ティアスタッフとして積極的に参加し、下関市民の方々との交流を深めながら地域の活性化に貢献することができました。

海燕祭の開催当日は好天に恵まれ、毎年恒例の各種イベントが好評でした。特に、吉本興業のお笑い芸人の皆さんによるライブでは、普段、テレビで見られない芸人の皆さんが多数出演したことから、多くの来校者を迎え、笑顔があふれる大変な盛り上がりでした。

また、本校内で同日開催された水産大学校公開講座、保護者懇談会にも多くの市民の方々、保護者の方々が参加され、充実した会合となったと聞いております。

今年度の海燕祭については、当初、東日本大震災の発生を受けて開催することを悩みましたが、本校の先生方、本校卒業生の方々、地域の方々など多く皆さまのご理解とご支援、ご協力を頂き、無事に開催することができたことを、大学祭実行委員一同、心より感謝申し上げます。

来年度の海燕祭については、今年度の取り組みを踏まえ、より一層充実させ、また、これまでとは一味違う輝きを放つものになることを願っております。

## 学生部だより ～各界で活躍する卒業生～

### 中央卸売市場に就職して

石川中央魚市株式会社  
水産情報経営学科61期卒 岩 崎 俊 祐

私は大学で水産情報経営学科の水産社会科学講座に所属していました。そして、卒業論文では金沢中央卸売市場の研究を行っていました。そのような理由もあって、平成23年度に水産大学校を卒業し、金沢中央卸売市場の荷受け会社である「石川中央魚市株式会社」に就職することを決めました。

卒業論文の研究内容は「市場外流通の影響による金沢中央卸売市場の影響」というものでした。実際現場に立って、先輩方に聞いた話では、ここ5年でも荷物の減少が大きいということ、それに比例して売上も減少してきたという話でした。

しかしながら我が社では新しい取り組みとして

「朝競り」というものを始めました。これはその日の朝、漁で獲れたものをその日の内に競りにかけるというものです。朝競りの業績

も右肩上がりに上がっています。また、他にも様々な取り組みが行われていて売り上げの回復を図っています。

私の会社は生産者や加工業者から荷を引いて、主に仲卸業者相手に販売を行っている会社です。その中でも、私は塩干部に所属しています。塩干部で



扱っている商品はアジの開きやしらすといった干物や塩サケや魚卵などといったものです。これらの商品のことは大学で学んだ知識が役に立っているのでも感謝しています。

仕事を始めた最初のころは、夜中の仕事ということもあって体が慣れていなくて苦しい日々が続きましたが、今は6時ごろに寝て0時ごろに起きるという生活リズムも出来上がって大分、体も慣れてきました。

まだわからないことだらけで、勉強の毎日ですがこれからも頑張っていきたいと思います。

私は、学生時代に過ごした部活動やアルバイトなどの経験が社会に出て大きく役に立っています。今は夢中で気づけないかもしれませんが、学生生活の日々を一日ずつ大事にして自分の成長のために役立てていってもらいたいと思います。

## 就職してから

独立行政法人水産総合研究センター 北光丸  
海洋生産管理学科 60期卒 岩永大 師

私は、2011年3月に専攻科船舶運航課程を修了し、独立行政法人水産総合研究センターに船舶職員として就職しました。現在は、北海道区水産研究所の調査船「北光丸」で、航海士として働いています。皆さんの中には、水産界や航海士として活躍したいと考えている人もいます。そこで、簡単ではありますが、私の職場を紹介したいと思います。

私の乗っている船では、主に海洋観測と資源調査を行っています。海洋観測では、北海道付近の海域等で、CTDやXBTを用いて海洋環境のモニタリングを行っています。資源調査では、スケトウダラの幼魚や卵等を各種ネットにより採集し、現存量の推測や生息環境を把握することを目的とした観測や鮭・鱒の生態調査のために、ベーリング海でトロール操業を行ったりしています。どの調査も興味深く、特にトロール操業では、出身の長崎では馴染みのない見慣れない魚種が獲れるため、新鮮に感じ航海を楽しんでいます。また、学生の頃とは違い、責任というプレッシャーを感じながら操船することは難しいものですが、面白くもあり、航海士としての仕事を実感しています。まだ知識も経験も浅いため、思うように操船することができずに戸惑う場面



が多いです。今になって思うことは、「学生の時にもっと真剣に取り組んでいれば……」などと考えてしまいます。

これからは、経験したことのない調査もあります。気持ちを改め多くの知識を身につけ、また多くの経験を積み、水産大学校の卒業生として恥ずかしくない航海士を目指していきたいと思います。

私は学生生活の中で、部活動や練習船での実習を通して多くの経験をしました。これは大きな自信となっています。普段の生活では気づかないかもしれませんが、今までの経験や学生時代に積み上げたものは、後々大きな支えになると思います。ですから、今を大切に充実したものにしてください。

## これから社会に旅立つ後輩の皆さんへ

(財)日本冷凍食品検査協会 福岡検査所

管理課 受付部門

食品科学科 59期卒 窪田 真理恵

私は、2009年3月に食品科学科を卒業し、現在は(財)日本冷凍食品検査協会に働いています。当協会には、「食の安全・安心を守る総合食品検査機関」として、輸出入食品の安全性確保のための検査、主に微生物試験や食品中の添加物並びに残留農薬試験等の様々な検査や試験を行っています。



私は直接、検査や試験は担当していませんが、試験品の受付業務の他、どのような検査を行えばよいのかなどの分析依頼の相談・問い合わせを受け、お客様のニーズに合わせてアドバイスを行っています。この業務には、食品の幅広い知識に加え、顧客のニーズを明確に把握し、迅速に対応する事が求められています。大学で習った食品衛生法を初めとした食品の専門的な知識や実験、実習が、日々の業務に活かされており、入会して約3年経った現在でも大学の講義ノートや資料を読み返しています。

私の場合、検査や試験を担当することを希望していましたが、希望の部署への配属とはなりませんでしたが、今では自分の仕事にやりがいを感じ、目標に向かって日々精進しています。これから社会に出て、皆さんも多くの壁にぶつかることがあると思います。しかし、その一つ一つに何か意味があると私は思います。最後まで諦めずに挑戦して下さい。

最後になりますが、大学生活で得られるものは、専門的な知識・技術そして同じ“食品”に興味を持った貴重な仲間との出会いです。残りの学生生活を大切な仲間と一緒に精一杯楽しんで下さい。食品業界に興味のある後輩の皆さんと、一緒に働ける日を楽しみにしています。





# 水学園だより

独立行政法人 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 近況報告

### 校長 山元 憲一



昨年度も就職率95%以上を達成することができ、目標値としてあげております水産および水産関連企業への就職率も75%を遙かに超える数字を残すことができました。

また、「日本技術者認定機構(JABEE)」の中間審査を受け、新しいプログラム名「水産流通経営学科、

海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科」として、水産流通経営学科の学科名を新しくした名称で審査を受け、4月27日付けで無事審査に合格した認定証を受け取りました。この認定証は、本校としては教育内容、教育方法、実際の教育の実施など教育全般に関する質の保証を認められたもので、卒業生の全員には「技術士補となる資格」が付与されるものです。今後の審査においても、「日々たゆみなく改善されているか」が、実地検査されます。今年度も早速、更なる改善をはかり、より充実した教育にしてゆくよう検討し、できるところから実施しているところです。

4月4日には、4.5倍の入試倍率の難関を突破した203名の新入生を迎えることができました。現在、新入生は「水産学とは」から始まり、水産に関する専門教育に向けての大学教育に取り組んでいるところです。今後の成長が楽しみです。

6月27日には、5年に1度の厚生労働省による

「食品衛生管理者」「食品衛生監視員」の養成施設に関する審査を、無事終了することができました。これらの資格は、昭和41年3月1日付けで指定された養成施設として本校で認定することができるもので、食品科学科を修了した全員に卒業と同時に付与されるものです。認定書のような書いたものを渡すことはありませんので、食品科学科の卒業生の中にはこれらの資格を備えていることを、自覚していない者のいるようです。

現在、本年1月に閣議決定された「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」に沿って、「水産総合研究センター」との統合に向けての作業が進んでいるところです。具体的には、本校の人材育成機能と相手の研究開発機能をより充実させて一体化させた法人に向けての検討です。内容は、閣議決定でも保証されている、本校の自立性、意志決定の独自性、名称、立地(下関)、施設を維持したもので、平成26年4月以降の統合に向けて、進めています。もちろん、学生諸君は、従来の通り水産大学校の学生として教育・研究が保証された形での統合です。今後、本校における教育・研究は、水産総合研究センターの持つ研究開発機能との連携が強化され、一層充実した人材育成の場となるものと期待しているところです。

このように、独立行政法人としての毎年の年度評価に加えて、海技士はじめ種々の資格に関する外部審査、先の「仕分け」などに対応しつつ、より良い教育環境へなるようにと努力しているところです。

これからも、さらに充実した教育体制を整え、教育効果を上げ、社会の養成に応える学生を育て、高い就職率を維持すると同時に、学生諸君が充実した学生生活を送れるように努力してゆく所存です。

## 最近の話題

### 着任のご挨拶

水産流通経営学科 講師 田宮 晴彦



今年4月1日付けで水産流通経営学科水産基礎講座に着任いたしました田宮晴彦と申します。専門はアメリカ史(アメリカ建国期政治・経済思想)であり、共通教育科目の英語と歴史学を担当しております。

広島大学文学研究科博士課程

後期を修了し、歴史学の学位(文学博士)および地理歴史・社会・英語の一種教員免許状を取得いたしました。

本学に赴く前には、北九州市立大学、広島経済大学などで非常勤を務め、英語・歴史・政治などの科目を担当しておりました。

実は水産大学校では、6年前に2度ほど、歴史学を担当させて頂きました。正門の前に広がる海と碇泊する自衛艦、吉見駅から通う道すがら嗅ぐ潮の香り、素朴な学生達とのやり取りは、今でも良く覚えております。また、「戦間期日本の海洋政策」と題した一講義を、本学の沿革に触れつつ行いました

が、その際に本学が国家より求められ、かつ現在も遂行している責務の重さを知り、大変勉強になりました。まさに「教えることは学ぶこと」だと思います。

時がたつのは早いもので、着任より三ヶ月余たちましたが、教えつつ学びつつ、大変充実した毎日を送らせて頂いております。

歴史学は、政治・経済・社会・文学・心理の全てを長い時間軸から捉える、きわめて包括的な学問です。歴史を学び、幅広い視野や未来への洞察力を養うことは、有為の水産人を作り上げて行く際にも必要不可欠であると信じております。また語学教育に際しては、学生の基礎学力の充実に努めると共に、語学を通じての歴史・社会・文化への興味・造詣を深めてもらうよう、心がけております。

私の研究対象である18世紀のアメリカにおいて、水産業はきわめて大きい経済的位置を占め、アメリカの海洋政策に大きな影響を与えていました。今後は本学の特色たる「実学教育」に少しでも役立つべく教育活動に邁進すると共に、自身の専門研究に「水産」からの視点を盛り込むべく大いに学んでいきたいと思っております。

何かと至らぬ点も有るかと思存しますが、今後ともどうかよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 天皇海山調査について

海洋生産管理学科 助教 中村 武史

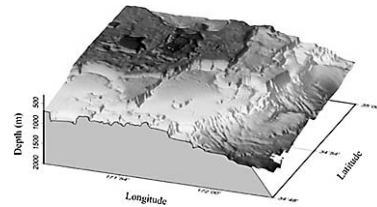


調査中は専攻科生自らが操船します

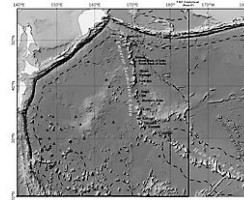
天皇海山は北西太平洋からカムチャッカ半島に向かって続く海底山脈群で、北緯45度以南の海山部ではクサカリツボダイやキンメダイなど底魚類の漁場となっています。この

公海上の漁場は日本をはじめ韓国、ロシア、米国など数カ国が漁業を行っており、近年では国連の場において、無秩序な操業を行うトロール漁業が底魚資源や海底環境、及び同海域に生息する宝石珊瑚類に悪影響を与えているとの懸念から、これらの漁業規制に関する国際的な議論が進められています。この一環として、水産大学校は水産庁からの委託を受け、平成22年度から天皇海山海域へ練習船耕洋丸を派遣し、科学的な知見に基づいた漁業管理措置の策定に向け、その検討を進める上で基礎となる当該海域の詳細な海底地形調査を実施しています。この度、本調査に調査員として参加する機会を得たので、その概要について紹介します。

調査は専攻科生による実習航海の途次（平成22年9月、平成23年7月、平成24年5月）に、光孝海山、C-H海山、コラハン海山において、耕洋丸搭載の最新鋭のマルチビーム音響測深機を用いて実



光孝海山南東部の三次元海底地形図



本研究で対象とした天皇海山海域

施しました。調査海域は日本から遥か2,100マイル離れた東経170度付近に位置するため、下関港から調査海域まで1週間程度の時間を要します。調査海域到着後はまず、測深機にて水深を計測する上で重要な音速値を把握するためCTD観測を行い、その後、300~1,500mの等深線上に、約10マイルの調査定線を0.2マイル間隔で多い時で60本以上設け、船速7 knots前後で約1週間、昼夜連続して計測を行いました。

調査中は操船実習も兼ねて、学生自らが船のオーダーや操船を行います（写真参照）。港から港へ船を運ばせる方法だけでなく、水産系海技士として、船舶の各種性能を理解した上でフィールド調査を遂行するための運航方法を学ぶこともこの実習の狙いの一つです。

海山というと紺碧の海底に急峻にそびえ立つ山の姿を想像しますが、耕洋丸にて調べた約3,400万個の水深データに基づく光孝海山北西部の海底は、南東から北西方向にかけて階段状に隆起する複雑な地形を呈し、最深部の水深は1,475m、最浅部のそれは279mを示すことが分かりました（図参照）。ここで得られた成果は国際会議の場で利用され、水産庁からも高い評価を頂いています。今後とも国が施策する国際資源調査に本校練習船が大いに活用され、水産系海技士として水産業を担う人材の育成に本調査での経験が生かされることを期待しています。

## 最優秀論文賞とメダル栄光 (文化賞)の授与について

海洋機械工学科 准教授 西田 哲也

海洋機械工学科船用機関学講座蒸気研究室（教員4名、本科生9名、研究科生2名）では、熱エネルギーの有効利用について研究を行っています。毎年、オープンキャンパス及び海燕祭（大学祭）の研究室開放、オープンラボ（下関市立しものせき水族館 海響館）に参加し、佐賀大学海洋エネルギー研究センター、韓国国立海洋大学校及び釜慶大学校の研究室と研究成果発表を通して交流を行っていま



す。今回、海洋大学校のLEE教授の紹介で、平成23年11月16日から19日まで韓国の釜山のグランドホテル(海雲台)で開催された再生可能エネルギーに関する国際会議“1st

Asia-Pacific Forum on Renewable Energy”に出席してきましたので、簡単にご報告致します。

15日の夕方関釜フェリーに乗船し、16日朝に釜山に到着しました。17日に、「最優秀論文賞」を受賞し、18日に受賞した論文について大原順一講師が講演を行いました。この賞は、再生可能エネルギーに関する研究内容が、国際的に優秀であると認められた論文に与えられるものです。受賞論文は、“A STUDY OF POWER SYSTEM UTILIZING WASTE HEAT ENERGY”で、工業プラント等からの廃熱を利用し、自然冷媒を用いた発電システムにおいて、想定される各条件において性能解析を行い、工業プラント等からの廃熱を利用した発電システムの“設計指針および運転指針”を示したものです。20日に無事下関に帰ってきました。

また、最優秀論文賞を受賞したことにより、その功績が評価され、平成24年2月14日、山口県教育委員会より共同研究者の水産学研究科水産技術管理学専攻の堀田将史君、吉村英行君の両名に、「メダル栄光(文化賞)」が授与されました。当賞は、文化・スポーツの各分野における全国規模の大会等において、優秀な成績を収めた個人又は団体学生を対象に授与されるものです。ちなみに、前年度には、卓球の石川佳純選手が「メダル栄光(体育賞)」を受賞しています。今回のW受賞を励みに、さらなる研究成果を発表することができるよう研究室一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

## 103rd AOCS Annual Meeting & Expo (第103回アメリカ油化学会)に参加して

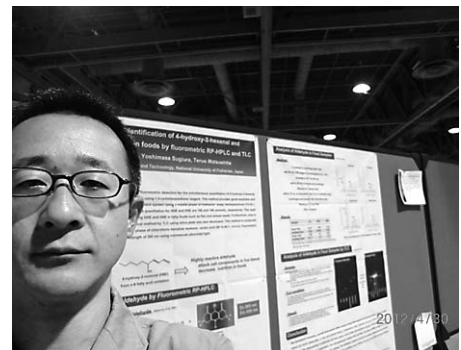
食品科学科 准教授 田中竜介

平成24年4月29日から5月4日まで、日本学術振興会科学研究費補助金の援助によりアメリカ ロサンゼルス のロングビーチで開催された103rd AOCS Annual Meeting & Expo(第103回アメリカ油化学会)に参加しました。開催日の4月29日から5月4日は日本ではゴールデンウィーク真っ直中であり、学会ではなく観光に行ったのではないかと疑われるかもしれませんが、本学会は例年この時期に開催されている様です。学会本部はアメリカにあるため、この期間はアメリカでは平日です。往路の飛行機はゴールデンウィークの日本人観光客が多くロサンゼルス国際空港での入国審査では日本人専用の臨時ゲートも設置されていました。しかし、空港の外に出ると、ほとんどの日本人は空港北

部に位置するハリウッド、ビバリーヒルズ、ダウンタウン方面に向かい、空港南部に位置するロングビーチへ向かうための日本人はほとんど見あたらず少し不安になりました。

さて、本来の目的である油化学会の様子について紹介しますが、油化学会は生物や食物に含まれる「油脂」の研究に関する学会です。水産物には健康機能性成分として知られているEPAやDHAが多く含まれていますが、これは「油脂」の一つです。本学会でも水産物の油脂に関する研究は注目されており、その機能性、分析方法、酸化防止法、有効利用に関する様々な分野での研究発表が行われています。私が今回発表した内容は、水産物に含まれるEPAやDHAは非常に酸化しやすいので、その酸化によって生成される物質(アルデヒド)を測定することによって水産物の品質評価を行うという内容です。このアルデヒドは水産物に限らず、他の食物や人間などの生体にも存在する物質であるため、今回の発表については多くの方に興味を持っていただきました。特に食用油脂を扱っている企業の研究開発者から質問を受け、水産物と同様に食用油脂の品質評価として利用したいとのコメントを頂きました。私は、単独での海外出張、国際学会、学会発表は初めてであり無事に遂行できるか不安でしたが、英語によるコミュニケーションに多少すれ違いがあったものの、なんとか無事に研究成果を発表することができました。

来年度のAOCS学会は同じ時期にカナダのモントリオールで開催されます。カナダは水産業が盛んであり、水産脂質に関



する研究も多く行われています。今から来年度の学会参加に向けて研究を進展させたいと考えていますが、一つ問題なのが、今年と同じ時期=ゴールデンウィーク=高額な旅費!AOCS様、日程を1週間ずらしてくれませんか?

## バイカル湖カジカ調査

生物生産学科 教授 酒井治己

ロシア国バイカル湖は世界でもっとも古く(約3千万年前)、もっとも深く(1,640m)、もっとも水量の多い(世界の淡水量の5分の1)湖である。それにもかかわらず55種・亜種の淡水魚しか自然分布していない。この中でもっとも種多様性が高いのが湖の浅所から最深部にまで生息しているカジカ類で、3科12属33種におよぶ。それらは幅広い水深帯と広大な沖合帯で多様な形態、生態、生殖様式を有している。そのため、バイカルのカジカ類は古代

湖における魚類の適応放散・種分化の好例であると言われてきた。

そこで、高知大学、北海道大学、東京大学、水産大学校の研究グループは「バイカル・カジカ類の著しい適応放散を繁殖生態・初期生活史・遺伝子の多様性から探る」と題してプロジェクトを立ち上げ（科学研究費補助金）、今年が4年目の最終年となった。

今年度は6月7日から23日にわたる17日間の調査が実行された。私は昨年に引き続いて2回目の参加、ほか一行は高知大学の木下泉教授、北海道教育大学の後藤晃教授（元北海道大学教授）、東京大学大気海洋研究所の馬淵浩司助教と、ロシア科学アカデミー動物学研究所のバレンチナ・シデレワ博士であった。

バイカル湖に隣接する都市イルクーツクの気温は日本とさして変わらないのだが、湖水温は3℃ちょっとしかない。冷水の巨大湖での魚類採集はメダカ掬いのようなわけにはいかず、バイカル博物館の調査船を用いた稚魚ネット曳き（水面から水深500mまでの各層曳き）と底刺網（水深200~300mのあたり）を中心としたものであった。コストパフォーマンスが高いとは到底言えない調査であったが、それでも深海性のカジカを含む10数種約80個体のカジカ類のDNAサンプルと、かなりの深部までの層別仔魚標本を得ることができた。写真1はバイカル博物館の調査船テレシコフ号による底刺網調査で、カジカならぬ主要漁業対象種のオームリ（コレゴヌス・ミグラトリウス）ばかりが獲れてしまった所。写真2はバイカルの特殊なカジカを代表する深海遊泳性の種コメフォルス・ディボウスキー。

それらサンプルの解析を急ぎ、かつ1990年代初頭から日本とロシアの研究者による共同研究プロジェクトをいくつも繋いで進められてきた研究の成果をまとめて、本年9月に水産大学校で開催予定の2012

年度日本魚類学会年会(21日~24日)の最終日に「バイカル湖におけるカジカ類の起源、適応放散と種分化」というシンポジウムに仕立てることとなった。興味とお時間のある方はぜひ聴きにいられたし。

## 着任のご挨拶

耕洋丸 三等機関士 柴田 衡 佑

皆さんはじめまして、私は本年度より練習船耕洋丸三等機関士に着任しました柴田衡佑（しばたこうすけ）と申します。経歴を簡単に紹介させていただきます。

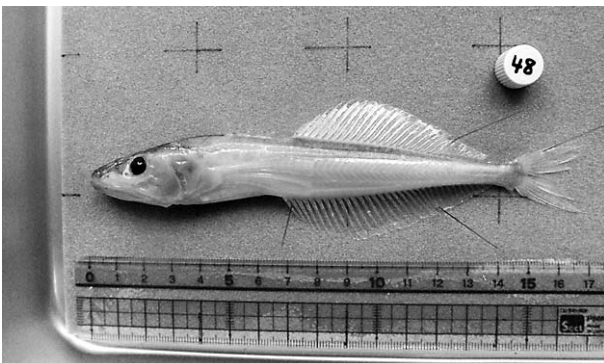


平成20年度本校専攻科船舶用機関課程修了後、水産庁へ入庁し、船舶予備員（漁業取締船、調査船の交代要員・見習い機関士）として1年、独立行政法人水産総合研究センターの調査船みずほ丸で2年間勤務し、現在に至ります。

就職してからは見る物聞く物全てが新鮮であり、学校で習得してきたことを思い出しながら奮闘してきた3年間でした。特に初めて正規乗組員として乗船したみずほ丸では担当機器を与えられ、責任の重さと平素からの勉強の重要性を痛感した次第であります。航海中にある機器が故障し業務に支障を来しかねない状態になった事があり、当時の機関長指揮の下総員で応急修理を行い調査業務を完遂しました。緊急時に的確な指示を下す為には冷静に状況判断する事と適切な対応策を習得しておかなければならない事を痛感しました。まだまだこのような修行中の私に練習船への異動の話が来たときは「この私が学生を指導することが出来るのだろうか。」と心配にもなりましたが、初心に戻り、心機一転頑張ろうと思いつき着任した次第であります。

この4月から勤務しておりますが、乗組員として改めて見る耕洋丸は学生時代とは違ったものに見え、当時気づかなかった所や、関心の薄かった個所など多数あり、当時ご指導頂いた乗組員も多数乗船しておられ、今も指導して頂きながら、まだまだ緊張と勉強の連続の中、仕事を何とかこなしている毎日です。

機関士、社会人としてまだまだ未熟者ゆえ、学生指導については機関長を始めとする諸先輩方には遠く及びません。しかし、最も学生に近い目線からアドバイスしていけるのは年齢が近い自分だと思っています。まだまだ修行中の身であるため、まずは挨拶や職務に取り組む姿勢等の、新人機関士として重要且つ基本的な事について、乗船学生に自分の経験を交えながら教えていきたいと思っています。また、私自身も成長し一人前の機関士となって、より良く後輩を指導できるようになりたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶申し上げます。



## 在校生の声

### 水産大の学生として

水産流通経営学科2年 上野達郎

水産大学校に入学して1年以上経ちました。在学生として今の感想を述べたいと思います。

まず、満足な点が2つ。1つ目は、自然が豊かなことです。大学のある吉見は海や山に囲まれており、空気が綺麗です。天気の良い日はとても清々しい気分になれます。

2つ目は、塾の講師のアルバイトをしていることです。講師のアルバイトは、ある程度責任を負いますが、それだけにやりがいや達成感を得ることができる、と私は思っています。生徒から得ることも多く、「ただ働くのはつまらない！」という人にはいいと思います。

次に、不満な点が1つ。風が強いことです。吉見はとにかく風が強く、バイク通学中何度も危険な思いをしました。ただこれも、自然豊かであるが故かな、と思っています。

また、最近、「機会は自分で作り出さなければいけない」と感じています。アルバイトや部活、何でもそうですが、自分で動かなければ中々チャンスは巡ってきません。特に本校は地方に位置しており、存在自体独特(?)であるためその傾向は強いと思います。自分で動く企画力や実行力が試されているように思います。

### 私の大学生活

海洋生産管理学科3年 桑原正守

水産大学校に入学したきっかけは、漠然と海に興味を持っていたことと、パンフレットに載っていた海底地形図を見て、海洋生産管理学科でこのような調査をしてみたいと考えたからでした。入学してみると、練習船や実習施設等の充実ぶりに驚きました。大学の図書館は水産関係の書籍が大半を占め、授業も他学科のものまで受けると本当に幅広い内容に触れることができました。

振り返って見るとここまでの大学生活は、学業や趣味、アルバイトなど好きなことに自分の時間を使うことができるため、自由であり、また個性を磨くことのできる貴重な時期でありました。私は滄溟寮で寮長をしておりますが、多くの個性を尊重し取りまとめる苦労があるものの、違う学科やそれぞれ異なる進路を希望する寮生と同じ屋根のもとで生活することにより、自分だけでは思いつかないような発想や話題に触れることができ、とても楽しい思いをしています。

3年生になり興味深い授業や実習が増え、将来に向けいよいよ専門性が高まってきました。私は、特に水中音響学に興味を持っています。現在は、海底地形図の作製や資源量解析の計算方法等を学んでい

ます。将来は水産資源の調査をしてみたく、進学を考えています。

### 自分の進む道

海洋機械工学科1年 黒川達也

私が水産大学校を志望し始めたのは、去年の8月のことでした。それまでは、とりえず自分の学力に合う学校。また、数学や物理が好きだったので、工学系。その様に考えていました。

去年の8月に水産大学校の海洋機械工学科の存在を知り、自分の好きな工学の分野で自分の好きな海に携わって学習ができるということにとっても興味を持ちました。詳しく調べた結果、卒業生の大半は将来船に乗るということでしたが、研究科に進む道や、4年で卒業して水産関連分野の企業に就職する道もあるということを知り、本学科を受験することに決めました。

ただ、水産大学校に入学して3ヶ月程過ぎた今、船に乗るということにも興味を持ち始めています。私は、色々なことに興味を持ちやすい性格で、たくさんのことを経験したいと思っています。将来どういった道に進みたいのか、確かなことは自分でもわかっていない状況ですが、船の上での仕事が自分の中で選択肢の一つとして生まれたのは確かです。2年次、3年次の乗船実習を経て、船の上での生活を体験し、将来自分の進む道を決めたいと思っています。

将来の自分の可能性を広げるためにも、水産大学校という自分で選択し、勝ち取った環境で、できる限りたくさんを経験し、多くのことを学んでいきたいと思っています。

### 「ボランティア活動と私」

食品科学科2年 別當博志

ボランティア活動とは何でしょうか。私にとってボランティア活動とは自分自身を成長させてくれる絶好の機会です。

先日、私は深坂自然の森で行われたイベントのボランティア活動に参加しました。主に駐車場の整理を行いました。5つほどあった駐車場と無線で連絡を取り合っていました。現場は混乱し度々渋滞を作っていました。とても大変な仕事で、気付いたらお客さんにいかに良い駐車場を提供するかで頭がいっぱいになっていました。

このような活動を通じて感じたことがあります。それはボランティア活動によって様々な世代の人々と交流することはとても有意義であるということです。活動をしていく中で同世代の人たちとは笑顔で話せるくらいになりました。同じ苦労をともにした人たちとそのようなことになることは嬉しいことでした。また、大人同士が真剣な顔つきで話す場面にも遭

遇することがあり、社会人の凄みを感じました。そして、子どもたちと触れ合った時にはあの頃の自分を思い出し、あの頃の自分に負けていけないと思ひ、がんばろうという気になりました。

ボランティア活動ゆえに体験できることや、感じることがあります。色々なことを体験、経験し色々なことを知ることによって価値観が変わったり視野を広げたりすることができると思ひます。私はこれからも積極的にボランティア活動に参加して、どんどん成長し、人生の大きな糧となるような大学生活を送りたいです。

## 委員会活動を通して

生物生産学科3年 大石 彩

大学の周りに大きな店は見当たらず、電車の本数も1時間に数本。水産系に特化した学習プログラム。水産大学校への入学が決まった時、私はこのような環境で大学生活をうまく送ることができるのか不安に思ひました。しかし、私の不安を解消してくれたのが、「新入生サポートセンター」(以下:新サポ)という、大学生協が主催する入学者相談会でした。私と同じ学科の先輩が丁寧に対応して下さいたことは今でも記憶に新しく、自分も他の人に何か貢献できる人になりたいと強く願ひました。

そうして私は生協学生委員会に入り、2年生には委員長を経験しました。大人数の学生委員たちの意見をまとめることは、大変という言葉だけでは言い表せず、特に今年の3月は新サポの責任者として動いていたので生協職員との交渉等、辛いことも沢山経験しました。

そんな時、新サポで私に対応した新入生とその保護者から感謝の言葉を頂きました。その言葉のお陰

で辛いことがあっても前に進むことができました。

大学生生活も残すところあと1年半です。これまでの大学生活で得た経験を胸に、これから待ち受ける就職活動や数々の困難に立ち向かい、笑顔で卒業できるように毎日を過ごしていきたいと思ひます。

## 研究科に入学してから

水産学研究科1年 野中 和賀樹

私は、今年の春に海洋生産管理学科を卒業し、水産学研究科に進学しました。現在、私が行っている研究に関して簡単に紹介しようと思ひます。

トラフグ属魚類には鱗がなく、年齢形質に乏しい魚種です。トラフグ属魚類の個体成長には大きな種間変異がありますが、耳石はどの種でも非常に小型であり、種間差が小さく、耳石の成長速度は遅いです。従って、トラフグ属魚類であるクサフグについて全長の成長の解析を行い、全長組成や成長曲線を求めます。また、クサフグから耳石を採取して耳石の成長速度を求めます。そして、他のトラフグ属魚類と比較し、耳石により日齢を推測することが可能であるか調べます。トラフグ属魚類の耳石により、日齢を推測することが出来ればトラフグ属魚類の資源管理に貢献できると思ひています。

研究科では勉強や研究のためのフィールド調査、測定データの解析などで、忙しい日々を過ごしています。今はフィールド調査により吉見付近の川でクサフグを採取し、採取したクサフグの測定データを解析しています。また、気分転換に所属していた剣道部に顔を出して稽古で汗を流したり、友人や後輩と話し合ったりしています。このように研究科に進学してからの学生生活を有意義に送っています。

## クラブ紹介

### 柔道部

柔道部主将  
海洋生産管理学科3年 加勢 隆一

私たち柔道部は、現在、部員数20名ほどで決して多いとは言えませんが、練習は週4日、各自、目標を持って励んでいます。また、月に一度、下関市内の県立武道館で行われる練習会にも参加し、スポーツ少年団の子供たちから、中学、高校、大学、一般の多くの人たちと一緒に汗を流しています。

出場している大会は、毎年5月に行われる中国四国学生柔道優勝大会をはじめ、中国四国学生柔道体重別選手権や北九州インカレ、市内の各種大会などにも参加しています。

柔道は、肉体的にも精神的にも成長できるスポーツだと思います。柔道をはじめとする武道には「礼に始まり礼に終わる。」という言葉があるように、礼節を重んじることにより、相手に対して、感謝の気持ちと敬意を表します。また柔道には「精力善用」、「自他共栄」という言葉があります。これは、

柔道の理念を示しています。「精力善用」とは、自分の力を最大限に使って、社会に対し善い方向に用いることです。「自他共栄」とは、相手に対し感謝して助け合う心を育み、自分だけではなく他人と共に栄える、という意味が込められています。

私たち柔道部は、このような柔道の理念の下、柔道を通して心身を鍛え、勝ち負けだけにこだわらず楽しく練習して、これから行われる大会に向けて頑張っていきたいです。



# 学生部だより

## 平成23年度における就職対策と進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 前田 和幸

本校では学内に「就職対策検討委員会」を設置して学生の就職支援を行っています。委員会は、委員長(学生部長)と各学科長および1年生～3年生のクラス担当教員からなる委員で構成され、事務局として学生課がこれを補佐しています。

主な活動は、(1)3年生を対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストの実施。(2)就職活動の専門講師やその他様々な分野で活躍されている講師を招いた就職ガイダンスの開催。(3)就職手引き書「UniCareer マガジン—大学生の就職編—」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導。(4)各学科の就職担当者および学生部職員が、水産関連企業・団体等を訪問し、本校および本校学生の紹介を行うとともに、訪問企業等の人事計画や採用情報の把握。(5)毎年1月末に開催している合同企業説

明会等です。

特に、本年1月28日(土)に開催された、本科3年生、専攻科進学予定の4年生および研究科1年生を対象とした合同企業説明会には、近年の不況にもかかわらず、本校からの採用実績のある企業80社の参加があり、企業側、学生側から熱心な説明や質問が行われ、参加した学生からも好評を得ました。

また、本年1月に厚生労働省から無料職業紹介事業の許可を受け、学生に対し、より積極的な就職の斡旋を行うことが出来る体制を整えました。

このような活動の結果、平成23年度卒業・修了者の就職希望者193名(本科138名、専攻科47名、研究科8名)の就職率は95.9%で、このうち水産関連分野に80.5%が就職しました。平成23年度は、近年の不況の影響を受け、大変厳しい就職状況が予想されたにもかかわらず、例年並みの高い就職率を維持することができました。

なお、本科、専攻科、研究科における進路状況および進学・就職内定先は別表の通りです。

## 平成23年度卒業・修了者の進路状況

平成24年3月31日現在

本 科 専 攻 科 研 究 科	修 卒 了 業 者 及 び 数	進 学					就 職 希 望 者 数	就 職										進 路 未 定 者 数	就 職 率					
		大 学 院	研 究 科	専 攻 科	研 究 生 等	進 学 者 合 計		水 産 関 連 分 野											内 定 者 合 計	水 産 関 連 分 野 者 就 職 希 望	水 産 関 連 分 野 者 就 職 内 定	全 体 就 職 率		
								国 家 公 務 員	地 方 公 務 員	各 種 団 体	漁 業・養 殖	水 産 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等	資 材 供 給 等	小 計	そ の 他 分 野							
水産流通経営学科	男	24				1	1	23			5		1	11		1	18	2	20	3	78.3	90.0	87.0	
	女	3					0	3						1			1	2	3	0	33.3	33.3	100.0	
海洋生産管理学科	男	27	0	0	0	1	1	0	26	0	0	5	0	1	12	0	1	19	4	23	3	73.1	82.6	88.5
	女	40		2	24	26	1	13			1	2		2	1	5	11	1	12	1	84.6	91.7	92.3	
海洋機械工学科	男	50	0	2	29	1	32	1	17	0	0	1	2	1	3	2	5	14	2	16	1	82.4	87.5	94.1
	女	41	1	2	22	1	26	2	13					3			5	8	5	13	0	61.5	61.5	100.0
食品科学科	男	48	1	2	24	2	29	2	17	0	0	1	0	3	0	0	6	10	7	17	0	58.8	58.8	100.0
	女	37	3	3		6	3	28			1		14	9			24	4	28	0	85.7	85.7	100.0	
生物生産学科	男	17	1			1		16					9	3			12	4	16	0	75.0	75.0	100.0	
	女	54	4	3	0	0	7	3	44	0	0	1	0	23	12	0	0	36	8	44	0	81.8	81.8	100.0
計	男	30	2	2		4	1	25			2	8	3	2	7	1	23	1	24	1	92.0	95.8	96.0	
	女	10	1			1		9						2		2	4	4	8	1	44.4	50.0	88.9	
計	男	40	3	2	0	0	5	1	34	0	2	8	3	2	9	1	2	27	5	32	2	79.4	84.4	94.1
	女	172	6	9	46	2	63	7	102	0	2	15	5	20	29	2	11	84	13	97	5	82.4	86.6	95.1
計	男	47	2	0	7	2	11	0	36	0	0	1	0	10	7	1	3	22	13	35	1	61.1	62.9	97.2
	女	219	8	9	53	4	74	7	138	0	2	16	5	30	36	3	14	106	26	132	6	76.8	80.3	95.7
専攻科 船舶運航課程	男	21				0		21	1	2	3	1		3	1	4	15	4	19	2	71.4	78.9	90.5	
	女	2				0		2								1	1	1	2	0	50.0	50.0	100.0	
専攻科 船舶用機関課程	男	23	0	0	0	0	0	23	1	2	3	1	0	3	1	5	16	5	21	2	69.6	76.2	91.3	
	女	20				0		20		2	1	2		6	4	3	18	2	20	0	90.0	90.0	100.0	
計	男	4				0		4						1	1		2	2	4	0	50.0	50.0	100.0	
	女	24	0	0	0	0	0	24	0	2	1	2	0	7	5	3	20	4	24	0	83.3	83.3	100.0	
計	男	41	0	0	0	0	0	41	1	4	4	3	0	9	5	7	33	6	39	2	80.5	84.6	95.1	
	女	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1	1	1	3	3	6	0	50.0	50.0	100.0	
計	男	47	0	0	0	0	0	47	1	4	4	3	0	10	6	8	36	9	45	2	76.6	80.0	95.7	
	女	7				0		7	1				3			3	7	7	0	0	100.0	100.0	100.0	
研 究 科	男	1				0		1									0	1	1	0	0.0	0.0	100.0	
	女	8	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	3	0	0	3	7	1	8	0	87.5	87.5	100.0	
計	男	220	6	9	46	2	63	7	150	2	6	19	8	23	38	7	21	124	19	143	7	82.7	86.7	95.3
	女	54	2	0	7	2	11	0	43	0	0	1	0	10	8	2	4	25	17	42	1	58.1	59.5	97.7
総 合 計	男	274	8	9	53	4	74	7	193	2	6	20	8	33	46	9	25	149	36	185	8	77.2	80.5	95.9
	女																							

### 【就職先の分類】

#### 水産関連分野

- 各種団体：水産に関する団体(漁業、流通、船舶等関係団体)
- 漁業・養殖業：水産動植物の採捕又は養殖の事業者
- 水産加工：水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者
- 水産流通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者
- 調査開発等：海洋水産関連の調査会社
- 資機材供給等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者
- その他：水産業関連分野以外の公務員・団体・企業など

平成23年度卒業生進学・就職状況一覧表

平成24年3月31日現在

<b>◎進学(大学院等)</b> 京都大学大学院 神戸大学大学院 水産大学校研究科 水産大学校専攻科 東京海洋大学大学院 東京大学大学院 広島大学大学院 北海道大学大学院 山梨大学大学院 <b>◎就職</b> <b>官公庁</b> 石川県職員(上級水産) 宇部市(消防吏員) 大分県職員(船舶) 大阪府警察 海上自衛隊幹部候補生学校 鹿児島県警察 厚生労働省(検疫所) 高知県職員(船舶) 滋賀県警察 水産庁(船舶) 高岡市職員 千葉県職員(船舶) 山口県職員(船舶) <b>水産関係等各種団体</b> 神戸市漁業協同組合 (財)福岡県栽培漁業公社 (社)全国海水養魚協会 (社)日本海事検定協会 (社)山口県栽培漁業公社 青年海外協力隊(JICA) 日本小型船舶検査機構 林崎漁業協同組合 姫路市漁業協同組合 広島県漁業共済組合 広島大学(船舶) 福井県漁業協同組合連合会 三重県漁業協同組合連合会 山口県漁業協同組合	<b>民間企業等</b> 飯野海運 イイノガストラנסポート イオンベーカーリー イコース イシグロ 出光タンカー うおいち エムケイ オーシャントランス 大隅タクシー 大津屋 尾形養鯉場 オリエンタル・テクノ 海星ムサシ 家業従事(漁業) 角上魚類 鹿児島船舶 金子産業 かね貞 かめや釣具 関西ベストフーズ キスコフーズ 北九州中央海産市場 九動 共栄マリン 近畿テレコム 久世 クラハシ クラレイ 栗林マリタイム ケーエス商会 航海訓練所 神戸港振興協会 コスモ海洋 サマユー サミット 三徳船舶 山陽マルナカ サンヨーフーズ	ジー・ネットワークス 下関酒造 社会保険診療報酬支払基金 商船三井 ショクリュー 水研 ゼニライトブイ ゼンショー 大一 第一中央船舶 大黒天物産 大水 大都魚類 ダイハツディーゼル ダイビングサービス コナン 太平洋フェリー 大洋エーアンドエフ 太洋日本汽船 タカノブ食品 田中食品 中央魚類 中冷 常石造船 鶴見サンマリン 東京日商エステム 内海造船 長崎魚市 菜の花 西野物産 ニチモウマリカルチャー 日研フード 日新興業 日東製網 日本海洋事業 日本サルヴェージ 日本ハム西販売 日本牛乳野菜 日本クッカーリー はごろもフーズ ハローデイ	阪九フェリー 日阪製作所 ビッグ富士 秀長水産 広島魚市場 福北興業 プレひまわり ほんぼ マックスバリュ九州 マリネット 丸久 まるきん マル幸商事 マルハチ村松 丸紅食料 万惣 万城食品 メイテックフィルダース 名門大洋フェリー メロディアン 元浜組 モンテローザ ヤナギヤ 山九水産 山越商事 ユアーズ ユタカフーズ 横浜冷凍 琉球海運 旭洋造船 神田造船所 西日本ニチモウ 前田海産 朝日共販 東武インターテック 美須賀海運 福吉魚類 ト部産業 WDBエウレカ
---	---	--	--

五十音順

平成24年度入試状況

本校の平成24年度入試状況をお知らせします。推薦・一般入試の志願者総数は827名でした。

昨年11月に実施された推薦入試には、全学科で162名の応募があり、また、今年2月に実施された一般入試には全学科で665名の応募がありました。

一般入試の学科別応募状況は、水産流通経営学科31名(募集人員12名に対する倍率2.6倍)、海洋生産管理学科113名(募集人員23名に対する倍率4.9倍)、海洋機械工学科83名(募集人員23名に対する倍率3.6倍)、食品科学科184名(募集人員27名に対する倍率6.8倍)、生物生産学科254名(募集人員18名に対する倍率14.1倍)でした。

一般入試の過去6年間の志願者数の推移は、18年度634名、19年度636名、20年度453名、21年度567名、22年度653名、23年度675名でした。平成20年度は大幅な減少が認められましたが、22年度以降は600人台を安定維持しています。これは、高校訪問、進学ガイダンスやインターネットを用いた情報提供など広報活動の強化を行った結果であると推察しています。今後も広報のあり方、入試制度の見直しなど、社会のニーズに沿って、本校の特色と個性豊かな教育方針を全面に打ち出し、魅力ある大学校となるよう一層努力する所存です。





# 水学園だより

独立行政法人 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町 2丁目 7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 平成 25 年にあたって

### 理事長 鷲尾 圭 司



水産大学校の春は入学試験が始まります。少子化による大学生世代の減少や大学間の過当競争で、大学経営が難しくなっているといわれる昨今ですが、今期は本校に5倍を超える競争率で志望者が来ていただいています。志望理由を聞かせていただくと、現今の経済情勢を反映して国公立並みの

授業料の安さも挙げられますが、自然豊かな立地環境とコンパクトな大学校の規模、そして何よりも就職率の高さが目を引いているようです。

「水産」と聞かれると、斜陽産業の魚を獲ってくるばかりの業界、などと思われているところもあるようですが、実際に来校されて学生や教員と話をされると、皆さんこの水産の世界への期待と発展の可能性を感じていただけていると思われまます。東日本大震災を経験し、日本中を挙げてその復興に取り組む中でも、水産の分野は大きな期待が寄せられているところですよ。

先日も東北の釜石に足を運んで参りましたが、漁港や養殖施設の再建は徐々には進んできています。しかし、肝心の担い手は不足しており、本格復興が遅れている現状があるようです。まさに、そんなところに水産大学校生の活躍の道があると思います。それは東北の被災地のみならず、全国の漁業現場に言えることですよ、世界中にも通用する話ですよ。

スーパーマーケットは便利な買い物の場として定着してきましたが、食品を買いに行きますと、肉のコーナーにくらべて魚のコーナーは何か貧弱になってきているように感じられませんか？ いつ行っても同じような品揃えで、季節の旬ものなど今ひとつ花が感じられませんか。それはPOSシステムなど売り上げ効率を重視して品ぞろえを進めるため、売れ残りの少ない定番商品に限られていくからですよ。

これは私たちの普段の暮らしにおいても言えることですよ、便利に簡単にと流れていくと、生活のメリハリが消えて食事はエサ、余暇は時間つぶしへと変質し、人として生きている価値が失われてしまします。ミハエル・エンデはそれを時間泥棒にあらわして表現しています。お魚は種類も多ければ料理法も多彩で、季節の旬のものを追って行くと一年が楽しく過ごせる代物ですよ。昨今のわが国が心淋しく感じられるのは、そんな奥深い食文化を見失い、一生を味気ないものにしてきているからではないでしょうか。

私は下関に来て4年になりますが、フク、ウニ、鯨などなど、多彩な水産物に恵まれ、温かな人情にもふれ、休みごとの漁港巡りや市場歩きが楽しくて仕方ありません。水産の幅広い分野を総合的に学べる場として水産大学校を守っていけるのも、こうした喜びと隣り合わせの日々だから出来ることだと思います。

昨年までの事業仕分けなど落ち着かない状況をひとまず終え、落ち着いた学びの環境を整えて参りたいと思いますので、皆さまもお魚への注目を今新たにさせていただき、水産分野の発展にご期待願いたいと思います。

最後になりますが、本校へのご理解とご支援をお願いするとともに、皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

## 最近の話題

### 「水産経済・流通調査」実習について

水産流通経営学科 助教 児玉 工

ふぐ延縄漁船や旋網漁船、大小の漁船がひしめく鐘崎漁港。今年度の「水産経済・流通調査」実習は、福岡県宗像市の鐘崎を拠点として行いましたのでご紹介します。

本実習は、漁業と水産物流通の実態を把握し、現状の問題点や今後の課題を考える力を養成することを目的として、水産流通経営学科3年生を対象に行っています。座学で養ってきた専門知識と見識を

改めて実地にて確認する機会として位置づけ、学生自身が“生で見る”、“生で聴く”ことを核心に据えて漁業地域を訪問し、学びの場としています。

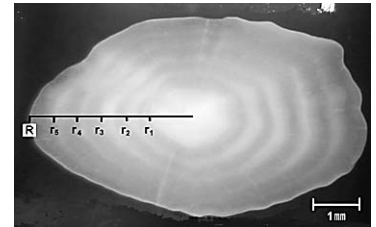
今年度は9月25日から27日の間、鐘崎漁業協同組合、宗像市水産振興課、公益財団法人ふくおか豊かな海づくり協会、海の道むなかた館、道の駅むなかたの皆さんにお世話になりました。鐘崎漁業協同組合では、トラフグやアジのブランド化、精力的に取り組まれている販売対策などについて講話を戴いた後、直営の加工場と活魚販売センターを見学しました。また、宗像市水産振興課の担当者からは、漁協合併や漁業後継者の確保など宗像市全域の漁業の

現状と課題について講話を頂くとともに、日々の業務や業務に対する取組姿勢についてもお話を伺いました。翌日は公益財団法人ふくおか豊かな海づくり協会にお邪魔しました。栽培漁業の重要性と協会の役割について講話を戴いた後、育成施設を見学しながら飼育上の工夫についてもお話を伺いました。海の道むなかた館では、様々な遺跡出土品を目の前に、この地に暮らしてきた人々と海の悠久の繋がりについて説明を戴きました。また、かつて鐘崎地区で使用されていた漁具類も特別に見せて頂くことができました。最終日には道の駅むなかたにお邪魔しました。平日の午前中にも関わらず多くの来客で賑わう物産直売所を見学するとともに、販売上の工夫や水産物の売上状況、商品開発における今後の展望や漁業者に対する注文に至るまで講話を戴きました。

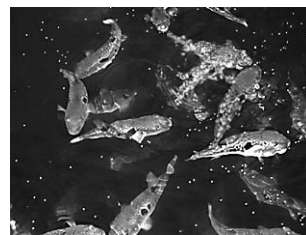
各訪問先で貴重な講話を頂き、学生達は耳を傾け、活発に質疑を行っていました。限られた時間でしたが、“生で見る”、“生で聴く”この機会を存分に活用してくれたのではないかと思います。後日提出されたレポートには、各々が問題意識を持って実習に臨み、実習を通して感じ、考えたことが綴られていました。この経験が今後の勉学や就職活動の礎になるものと期待されます。実習を企画する側も今回の実習を礎としてさらにバージョンアップを図り、より実り多い実習にしていけたらと考えております。



▲写真1 研究室にて



▶写真2 ムシガレイの耳石



◀写真3 成長研究のために飼育実験中のトラフグ



▼ふくおか豊かな海づくり協会での見学の様子



▲鐘崎漁業協同組合で講話を伺う様子

## 水産資源学を教えています

海洋生産管理学科 教授 今井千文

海洋生産管理学科の今井千文です。現在は水産学研究科の専任で、研究科長を拝命していますが、海洋生産管理学科で、水産資源学のかなり広い分野について教育・研究を行っています。海の生き物とふれあう機会の多い研究室であるためか、毎年多数の卒論生が集まり、賑やかにやっています(写真1)。

水産資源学とは、一言で言うと、魚の数を調べる学問です。海や川、湖には様々な魚やエビ、カニ、イカ、タコなどの無脊椎動物が棲んでいます。このうち、人間が生きていくために必要で、かつ獲ることができるものを水産資源といいます。水産資源で

ある魚介類は、毎年卵を産み、それが育って翌年以降の資源の増加分になり、これを加入群といいます。加入量は親の量に比例した卵数とともに、初期の生き残り率により大きく変化します。地球温暖化などによる海洋環境の変化が加入量変動の一大要因です。増えた分だけ獲れば資源は減りませんが、獲り過ぎれば資源は減少します。これが続き、資源が大きく減って、獲れる量も激減する状態を乱獲といいます。加入量は見えにくいので、多くの資源が乱獲に陥ります。乱獲を防ぎ、資源を適正な水準に保つ方策が資源管理です。資源管理を行う上で、資源量情報は無くてはなりません。

水中の魚の数を直接数えることはほとんど不可能です。したがって、魚の数を調べるには一部を捕まえて、その数から推定するしかありません。資源を調べる上で、魚が年齢とともにどのように成長するのかということはとても重要な情報です。当研究室では魚の成長を調べるため、耳石(写真2)を使用して年齢査定をしたり、トラフグなどの飼育実験も実施しています(写真3)。

学外では専門分野の特徴を活かし、微力ではありますが、水大の情報発信を行っています。山口県の水産行政への協力として、12年間務めた海面利用協議会に続き、昨年から山口県瀬戸内海区漁業調整委員に就任し、キジハタの資源管理方策策定など、瀬戸内海山口県海域の漁業合理化の推進をバックアップしています。1998年から実施している日本海西部の沖合底曳網漁業資源の調査結果を提供し、資源管理の情報として利用されつつあります。下関市立水族館海響館のオープンラボでは、毎年年末に魚の耳石を使用した年齢や日齢の推定を一般に紹介しています。

### リスボンでの国際会議に出席して

海洋機械工学科 准教授 渡 邊 敏 晃

国際会議 Multiphysics 2012 に参加するため、12月中旬、ポルトガルのリスボンに行って参りました。下関との寒暖差はほとんど感じることなく、暖かいことを期待していた私にとっては少し予想が外れました。この国際会議は多相現象に関する内容を取り扱うもので、実験的なものから数値計算まで多彩な内容が揃います。私の今回の発表内容は「衝撃波によるフリーズドライの前処理技術」に関するものです。衝撃波による前処理を施すことにより、通常のフリーズドライでは湯戻し不可能な厚さや大きさの食材加工を可能にするもので、エビを試験体にした実験結果を発表しました。プレゼン後のディスカッションでは「昇華」を意味する「sublimation」が頭からすっかり抜けてしまい、「液体にならずに固体からそのまま気体になるので」と回りくどい説明になったのですが、途中で「sublimation?」と質問者が相槌を入れてくれたので、安堵してそのあとのやりとりができたのを覚えています。

国際会議で海外に出た際には極力、地元の魚売り場を見るようにしています。今回のリスボンでのお魚売り場は日本とあまり変わらない陳列方法でした



リスボンのお魚売り場



ベレンの塔



テージョ川



日本発見 1541 年

が、クラッシュアイスを敷き詰めた上での盛り付け方が少し派手で、色鮮やかな種類が多かったような気がします。また、16世紀にリスボン港の防衛とテージョ川を出入りする船の監視を目的に建設された要塞であるベレンの塔を見学してきましたが、付近の風景としては関門海峡に非常に良く似ており、親近感を覚えました。このテージョ川沿いにはポルトガルの大航海時代を記念したモニュメント「発見記念碑」もあるのですが、その広場の世界地図には日本発見の年が1514年と記されておりまして、歴史の深さを感じるひと時でした。

### 釜慶大学校(韓国)との学術交流会

食品科学科 教授 花岡研一 (実行委員)



両校の大学院生が発表を行ったポスターセッションでの一コマ(於、本校共同研究棟)



両校の学生が参加したティーパーティーでの一コマ(於、本校国際交流会館)

昨年(2013)の10月9日から12日まで、本校と韓国の釜慶大学校との間で第18回学術交流会が開催されました。この開催に当たり、後援会から手厚いご援助をいただきましたことに心より感謝申し上げますと共に、以下その内容を紹介させていただきます。

この学術交流会は1995年の第1回から両校で交互に開催され現在に至っております。ただし、今回は特筆すべき出来事がありました。釜慶大学校の練習船 Kaya 号の下関入港と、乗船学生 72 名や教職員の方達の本校訪問です。学生の中には、KOICA (日本での JAICA に相当) との関わりで世界各国から釜慶大学校に留学中の大学院生も含まれておりました。本校としては、学術交流会についてはもともと担当予定であった食品科学科で、Kaya 号入港については全学的に対応(窓口は、企画調整役の川崎潤二准教授)することとなりました。

まず入港当日、講演される先生方 7 名を新下関駅にて、Kaya 号を下関国際ターミナル岸壁にてお迎えした後、「Kaya 号と本校練習船耕洋丸との相互見学」、「海響館(水族館)等の見学」、夜には「講演される先生方と食品科学科教員(座長担当者など)との打合せを兼ねた懇親会」その他が行われました。2日目には、「学生を含む両校代表の下関市長表敬訪問」、「バス 2 台による訪問団の来校と学内見学」、「両校学生によるティーパーティー(昼食)」、「例年の学術交流会」、「両校大学院生による研究発表会(ポスターセッション)」、夜には「学生を交えての歓迎会」とつづきました。このポスターセッションでは本校の大学院生も英語で実施し、国際的舞台での発表デビューとなりました。3日目には、「バスツアー(釜慶大学校関係者のみ参加)」、夜には「Kaya 号主催の船上レセプション」などがありました。なお、バスツアーでは萩の松陰神社も見学先の一つでした。吉田松陰については、予め船中で

歴史学の教授から講義が行われていました。その中で、吉田松陰は「新時代を築くための改革を行うべく弟子達を育てた偉大な教育者」として説明されたとのことでした。

ところで、入港時には竹島問題の影響で日韓両国に緊張感がありました。しかし、参加者、特に両校の学生諸君は、学术交流や若者の交流には政治問題も妨げにならないことを、世界各国からの若い大学院生の見守る中で見事に証明してくれました。このことをご報告して、稿を終わらせていただきます。

## 2012年度日本魚類学会年会開催

生物生産学科長 教授 酒井 治 己

平成24年9月は、水産大学校において日本水産学会秋期大会および日本魚類学会年会が1週間をあけて連続して開催され、さらに日本水産学会秋期大会期間中に日本魚病学会秋期大会も同時開催という前代未聞の月となりました。水産学会秋期大会は水産大学校あげでの取り組みがなされ、魚病学会秋期大会は本校の学会員を中心に開かれましたので、別途ご紹介が有るものと考えます。この度は生物生産学科教員を中心に実行委員会を組織して開催した魚類学会年会についてのご紹介をします。

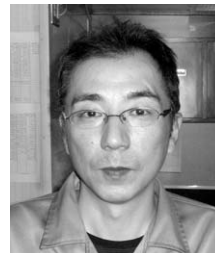
日本魚類学会は魚類学の進歩と普及を図ることを目的とした学会で、1968年4月3日に設立されました。会員数はおよそ1400名(団体会員含む)、大学等の研究者や学生をはじめ、水産関連団体や環境関連企業などさまざまな分野で活躍されている方々によって構成されています。平成24年9月21~24日に、水産大学校後援会、水産大学校同窓会滄溟会、及び下関観光コンベンション協会の協賛を得て、本校において2012年度日本魚類学会年会を開催しました。実行委員は生物生産学科教員の酒井治己(委員長)、須田有輔、野田幹雄、竹下直彦、半

田岳志、高橋 洋、並びに海洋生産学科教員の今井千文で、やはり魚類学会会員の鷺尾圭司理事長並びに山元憲一校長にも絶大なご協力を頂きました。

大会には学内外から298名が参加してシンポジウムも合わせると164件の研究成果発表がありました。本校主催ということで、4年生を中心に延べ70人の学生に受付係や会場係などの年会運営を手伝ってもらいました。学生を巻き込んだ活発な議論のもとでたいへん有意義な大会となりました。学生自ら学会運営および議論に参加できたことは、何物にも代え難い経験になったものと思います。この経験は、必ずやこれからの彼らの人生を支える自信に繋がっていくことでしょう。これからも、このような活動を通じて生きのよい学生教育に心がけていきたいと考えています。最後に、協賛を頂いた後援会、滄溟会及びコンベンション協会に厚く御礼申し上げます。

## 着任のご挨拶

天鷹丸一等機関士 浦 啓 助



本年度4月1日付けで天鷹丸一等機関士として着任いたしました浦啓助と申します。

平成5年本校専攻科(機関科)修了後、平成5年6月1日水産庁へ入庁、照洋丸(調査船)、白竜丸(取締船)、独立行政法人水産総合研究センターこたか丸(調査船)に乗船し、現在に至ります。

天鷹丸での職務は学生指導ということで、今までの船舶職務とは全くかけ離れており、戸惑いの連続でした。また、19年前の自分と比較しながら「当時の私もこんな感じだったのかな?」「これでいいのか?」と考えさせられることが多々あります。学生を指導するにあたり明確な指示を与えないと学生も不安や戸惑いを感じたり、統率のとれた実習にならないことを常に考え学生と向き合っております。

天鷹丸に来て10ヶ月が経過し、専攻科学生と接した感想は、「真面目でおとなしい」というのが印象的です。乗船実習というのは学校での授業の延長線で、現場の機器を間近で見る、触る、聞く、体験したことを如何に感じ取るかにより理解を深めることだと思います。また、船の中という限られた空間において集団生活をするので船乗りという生活がどのような所なのかを習慣性を持たせ体におぼえさせることにあると思います。実際私も19年近く船舶職員として働いてきましたが、船は出港してしまっただら色々制約があり、個人々が勝手な行動をしては成り立たない職場です。いかに人間関係を良好に保ちつつ仕事を進めていくかにかかっています。学生諸君にはそのことを少しずつでも理解してもらい自分たちの今後の就職先で生かしていただきたいと願っています。

皆様の協力を賜りつつ努力してまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。



## 就職活動

### 就職活動の中で

水産流通経営学科4年 岩本寧徳

就職活動始めた頃の私は、インターネットや就職ナビを参考にして就職活動に臨んだ。自分をどうやってキレイに見せるか、その上で面接では噛みずくに話すか。そればかりを考え、誰にでも言える様な事を並べ立てて面接で語っていた。しかし、企業の人事部は私達が思っている以上に私達を見ている。嘘偽りで自分を固めても直ぐに見破られる。私がそれに気付いたのは、十社近く企業面接で落ち、己を振り返った時だった。

では就職活動の上で大事なものは何か、であるが、参考程度に私の経験から言うと、自分だけの長所を今までの経験を踏まえて話すこと。そして、そこから言える自分らしさを素直に伝える事だと思った。別に面接で言葉に詰まったり、噛んだりしても気に病む事はない、企業も私達が緊張しているのは百も承知である。何よりも企業が一番に見たいのは、私達の表面ではなく、中身だということを忘れてはいけない。とはいえ、やはり面接の練習はしっかりやっておくに越したことはない。順序良く話すこと、姿勢や目線を合わせる事も重要である。

最後に、就職活動に臨む貴君らに言うておく。失敗を恐れるのではなく、失敗で挫けることを何よりも恐れる。では、貴君らの就職活動の健闘を祈る。

### 公務員になるために

海洋生産管理学科4年 塚野拓人

私は今年度、北海道職員等採用上級試験(水産)に合格しました。公務員を目指した理由は、ひとえに水産業の発展と、公共の利益の為に働きたいと考えたからです。

私は本校入学時から水産職の公務員になろうと考えていました。公務員試験合格の為にどのような事をするかを考え始めたのもこの頃です。その対策として、日々の講義を試験勉強と結び付けるようにしました。本学科では水産関連の法律、漁具、漁法、資源管理から漁船運航など漁業生産活動に必要な知識を幅広く学ぶことができました。カリキュラムにより必修・選択科目とされている他学科の授業も、水産を広く理解する上で非常に有効でした。専門試験の対策には、水産海洋ハンドブックは勿論、講義資料や実習等で得た現場経験が活きました。また、面接・集団討論の対策として地域の方々との交流を積極的に行いました。歴史ある本校のおかげで「水大生です」と一言自己紹介をすると、多くの方々から親切にして頂きました。この交流によりコミュニケーション能力を身につけたり、漁業者の生の声を聞く機会を得るなど多くの経験を積むことができました。このことは面接・集団討論で大いに役立ちました。

公務員採用試験は狭き門です。しかし日々の生活

の中で、公務員になる為にはどうすれば良いかを考え活動すれば決して難しいものではないと考えます。

### 就職活動を終えて

海洋機械工学科4年 大久保悠史

試験会場の控え室にて夢を語り合ったり、お互いの研究内容で盛り上がりたり、ライバル達と過ごした就職活動の日々は、今思えば辛くも楽しい貴重な経験であったと思います。

就職活動中は多くの優秀な学生との出会いを通じ、如何にしたら彼らに勝てるだろうかと必死に考えていました。控え室では和気藹々と談笑する学生同士も、いざ入社試験が始まるとお互いに将来をかけたライバル同士です。そのような中、いくつか面接を経験するうちに自己分析の重要性を思い知ることとなります。

「自分」という人間を知り、表現し相手に伝えることは難しいものでした。また、自己分析を始める前は、思っていた以上に自分のことを知らずにいたような気がします。そこで、私の場合は、人生の半分以上を空手道やテコンドーと共に生き何を得られたか、それによって会社のためどのように貢献出来るかを懸命に考え、面接に臨みました。

20余年の人生において、各々が自信を持って何かに取り組んだ経験とその信念は、必ずや就職活動において皆様の力になることと信じております。また、就職活動を機に、ライバル達から何かを学び、視野を広めるのも良いかもしれません。

### 就職活動を終えて

食品科学科4年 蒲谷拓人

私が就職活動を始めたのは、3年生の2月頃でしたが、初めて受験した会社は落ちてしまい、就職活動の厳しさを実感する事になりました。根拠もなく就職活動を楽観視していたことを反省し、準備不足を実感したものの、何から手をつけ、誰にどのようなアドバイスを請えば良いのか茫然としました。もちろん、先生方や先輩に頂いたアドバイスは大変参考になりましたが、実際の就職活動は個々の会社により状況が異なるため対応の仕方も変化させなくてはなりませんでした。

入社試験で重要なのは面接ですが、会社により問われることが全く異なる事に気付き、受験する会社の情報をパンフレットやWeb等で調べ、場合によっては関連会社の情報、業界の状況までも可能な限り調べました。また、真摯に自分の考えを伝えることに務めました。

その後、そうした努力をしても落ちる場合がありますでしたが、必ず反省点をノートにまとめ、次の選考に活かし、その結果4月に某社より内定を貰う事が出来ました。就職活動は実力だけでなく、情報の管理が大変重要になります。ともすれば根拠のない話が出回る場合もあり、その真偽を見抜く力も重要と

なりました。就職活動は、コミュニケーション能力が試されます。積極的に様々な人と交流し、自分の魅力を引き出し、夢を叶えられるよう頑張るのが大事だと思います。

## 私の就職活動

生物生産学科4年 菅 沼 倫 美

本校に入学した当初から公務員志望だった私ですが、就職を公務員一本に絞り、本格的に勉強を始めたのは、実は4年生の4月になってからでした。3年までにあまり勉強ができておらず、また自信がなく、あきらめて一般企業への就職活動をしていたからです。

本当に遅すぎるスタートだったので、不安でいっぱいでした。そんな私を支えてくれたのは、たくさんの情報や知識をくれて応援してくれる仲間と、たくさんのアドバイスをしてくださる先生方、いつも励ましてくれる家族の存在でした。時には涙が出る日もあるほど、きつくて辛い毎日でしたが、「支えてくれている方々のためにも自分はやってやるんだ」という強い思いで、一生懸命、必死に勉強しました。そうして8月下旬、大分県庁水産課から、内定をいただくことができました。自分の夢がかなえられたことはもちろん、支えてくれた方々に良い報告ができたことが、何よりも一番嬉しかったです。

今回私が身をもって感じたことは、「努力は必ず報われる」ということです。一生懸命頑張っている人には、ちゃんとそれ相応の良い結果が返ってきます。

す。何をやるにしても、努力するというのが一番大切なことだと思います。皆さん、夢をあきらめず、努力を惜しまず、頑張ってください！

## 卒業にあたって

専攻科船舶運航課程 濱 谷 知 宏

専攻科を含め5年間に及んだ私の大学生活も、もう間もなく終わろうとしています。社会人としての新たな生活を有意義なものにすべく、今はひとつでも多くの事を練習船の方々から吸収出来るように心掛け、最後の乗船実習に臨んでいるところです。

私が航海士に対して憧れを抱き始めたのは、小学生の時でした。北海道の礼文島で生まれ育った私にとって、船はまさに身近な存在であったからです。小型漁船や定期連絡船、さらには夏になると寄港するクルーズ客船に至るまで、毎日のように双眼鏡を片手にそれらを眺め、「船に乗りたい」という思いを抱いていた頃を懐かしく思います。

水産大学校という恵まれた環境の下、自分自身が志した学問を修得出来たと言う事を、今はとても幸せに感じています。在学中はもちろんの事、就職活動に際しても、最終的に重要となる事は自分自身の思いであり、またそれに起因した行動であると考えています。

私は本校から船舶職員として内定をいただいております。4月からは実習生ではなく、ひとりの航海士として乗船する事になります。環境は大きく変化しますが、どんな時も初心を忘れる事無く、謙虚に航海士人生を歩みたいと思っています。

# 大 学 祭

## 海燕祭を終えて

2012年大学祭実行委員長 海洋機械工学科2年  
吉 村 智 矩

本校の伝統の一つである大学祭（海燕祭）には、本校が所在する水産都市下関の地域の方々と学生がともに手を取り合い、活気あふれる地域づくりに貢献していこうという思いが込められています。今年度においても、この吉見の地から海燕祭を通して下関を元気にしていこうという実行委員会の強い意志のもと、10月6日～7日に開催しました。

今年度の海燕祭のサブタイトルは「Catch the Wave ～3度のメシより海が好き～」とし、学生全員で大きな波に乗り、海燕祭を盛り上げ、水産都市下関の活性化に貢献していこうという思いを込めました。

今年度海燕祭開催に向けた実行委員会の活動は今年度4月から本格始動し、開催準備ばかりでなく、下関地域の様々なイベントや支援活動のボランティアスタッフとして積極的に参加し、下関市民の方々と交流を深めながら地域の活性化に貢献することもできました。

海燕祭の開催当日は好天に恵まれ、毎年恒例の各種イベントが好評でした。特に、吉本興業のお笑い

芸人の皆さんによるライブでは、普段、テレビで見られない芸人の皆さんが多数出演して頂いたことから、多くの来校者を迎え、笑顔があふれる大変な盛り上がりでした。

また、本校で同日開催された水産大学校公開講座、保護者懇談会、各学科の研究室紹介にも多くの市民の皆様、保護者の皆様が参加され、多くの方々に本校における教育、研究活動をご理解頂き、充実したイベントとなったと聞いております。

2011年3月11日に発生した東日本大震災によって大きな被害を受けた水産業界の復興には、まだ多くの課題が残されています。将来に向けた水産業界の復興、発展には、私たちの若い力も不可欠であると考えています。今年度の海燕祭を通じ、本校の先生方、本校卒業生の方々、地域の方々など多くの皆さまのご理解とご支援、ご協力を頂き、無事に開催することができたことを心より感謝するとともに、将来の水産業界のリーダーを目指して活気あふれる学生生活を送っていきたくと考えています。

最後に、来年度の海燕祭については、今年度の取り組みを踏まえ、より一層充実させ、また、これまでとは一味違う輝きを放つものになることを願っております。

## 学生部だより ～各界で活躍する卒業生～

### 学生生活の先にあるもの

株式会社日阪製作所  
海洋機械工学科 52 期卒  
水産学研究科(水産技術管理学専攻)修了

松下 稔

私は2004年3月に水産学研究科(水産技術管理学専攻)を修了し、(株)日阪製作所へ就職しました。就職から約9年間、プレート式熱交換器の開発に従事しています。

熱交換器とは様々な流体がもつ熱エネルギーを別の流体へ移動させる機器のことで、プレート式は最も効率の良い熱交換器に分類されます。身近な例としては、海響館のペンギン達が暮らす亜南極水槽の海水温を維持するために使われています。また、耕洋丸の主機潤滑油温度(約45℃)維持のために、船内の清水(約37℃)と熱交換させて冷却します。逆に潤滑油によって温められた清水は周囲の海水(33℃程度)と熱交換させて元の温度まで冷却します。これらの機器に日阪のプレート式熱交換器が採用されています。また、海外でも使用されており、巨大な石油化学プラント等で使用された全ての冷却水を海水によって元の温度まで冷却するセントラルクーリングシステムが得意です。

プレート式熱交換器に求められる重要な機能の1つは高伝熱性能です。この点においては学生時代に学んだ伝熱工学が非常に役に立っています。実は私の卒論や修論のテーマもプレート式熱交換器に関するものでしたので、学生時代に残した課題を社会人として続けている感じです。新製品を開発し続けるためにはかなりの気力、体力と洞察力が必要で心が



折れそうになることもあります。そんなときは、1から始めて本気で頑張った修論のことをよく思い出します。そして、あのとときの学費を払いながらの苦しみに比べれば、苦しんだ分給料が貰える今は何て幸せなのだという気持ちになれます。私の恩師がよく口にされていた「若いときの苦勞は買ってでもしなさい」とはこのことだったと実感しています。

大学生活における学業、遊び、恋愛、家事やバイトなど全ての経験は、後の自分を支えてくれます。中でも一生懸命、夢中になったことは、より強固な支えになりますので、皆さんも夢中になれる何かを沢山見つけてください。

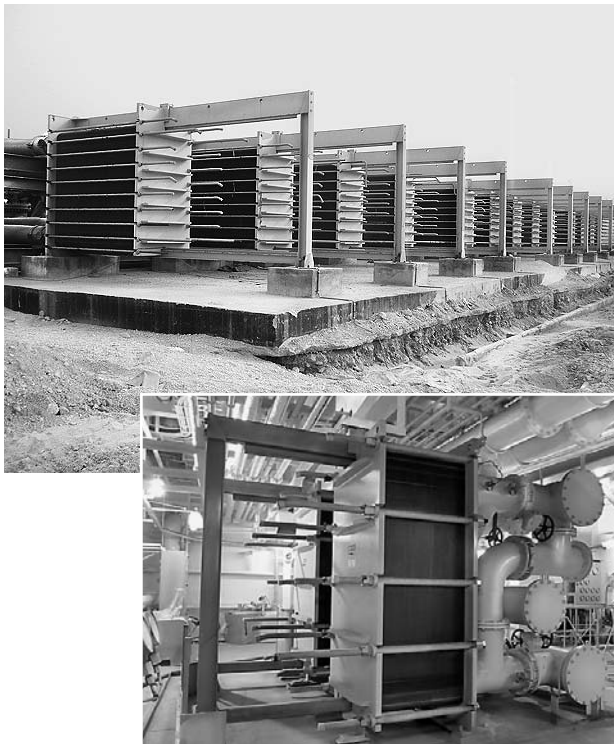
### 予想しなかった就職先

栃木県立馬頭高等学校 生物生産学科 55 期卒  
水産学研究科(水産資源管理利用学専攻)修了  
佐々木 慎一

生物生産学科、水産大学校水産学研究科を卒業し、現在は地元である栃木県にある馬頭高校という学校の水産科でなぜか教職に就いています。水産大学校の生物生産学科を卒業しても教員免許は取得できないので通常は教職には就けません。生物生産学科の卒業生としては恐らく前例がないであろうと思われる就職先です。かなりラッキーな運と周囲の方々のおかげで今の職場で教諭として働いています。

馬頭高校の水産科は、海なし県栃木にあり内水面養殖を専門にしている学科です。授業では栽培漁業や海洋環境、水産生物、食品製造など広く水産について学び、実習池ではアユ、ニジマス、ナマズ、ウグイ、キンギョ、ドジョウにチョウザメなどを飼育しています。カヌー実習や和船実習など内水面ならではの行事もあり、部活動ではカヌー部というほぼ川遊びしかしない部活の顧問をやっていて楽しく仕事に励んでいます。卒業論文、修士論文では魚道に関する研究をしましたが、現在も生徒の課題研究という授業の時間に生徒と一緒に高校周辺の河川調査をしたり、休耕田を利用したビオトープの造成のアドバイスをしたり、土木事務所と連携して魚道の改修に携わるなど専門を生かした仕事することも出来ています。

現在の目標は絶滅に瀕した「川漁師」的な卒業生を



世に送り出す事です。産業としては軽視されがちですが、川漁師や漁協の組合員は地域の河川環境や文化を守っていくためには重要な存在だと思っているので、そんな生徒を育てていければと考えています。

これまでの短い教員生活を振り返ってみると、水産大学校で経験した多くの事が役に立っていると感じています。講義で学んだ事はもちろん、公務員試験のために勉強したこと、部活動、当時はまだ個人部屋ではなかった寮での生活や大学祭実行委員での経験、ほぼ住んでいたと言って過言ではない研究室での日々、遊びやアルバイト…。水産大学校で学んだことがあるからこそ今の自分があると思います。在校生のみ



さんには貴重な水産大学校での学生生活を有意義なものに出来るよう、色々な事にチャレンジして欲しいと思います。良い事も悪い事も含めた経験、人との関わり、きっとすべてが人生に生きてくるはずで

## Professional

鹿児島県立鹿児島水産高等学校  
海洋科機関コース教諭  
機関学科(現・海洋機械工学科)45期卒  
専攻科船用機関課程修了 林 田 修 一

近年、公的機関、企業を問わず、あらゆる職業組織において「即戦力」や「プロ」といった言葉が、やたらと飛び交うようになった印象を受けます。しかし飛び交う頻度に比して、「プロの何たるか」というものが、しっかり認識された形で使われているケースを、とても少なく感じます。



私が専攻科を修了した平成8年頃は船も就職氷河期で、企業が「石ころの中からダイヤモンドだけを拾い上げよう」とする姿勢は、現在よりも熾烈でした。私は自他共に認める「石ころ」でしたので、内定



を取れず、初めての就職の時点から中途採用でした。

自分が現実主義者だったということもありますが、「石ころでも磨けばダイヤモンドになる」というような、根拠のない錬金術に身を任せて自己陶醉に浸れるほど社会状況は良くなかったので、生きる方法を真剣に考えました。ただ、「石ころには石ころなりの生き方がある」という妙な信念があったおかげで、適度にモチベーションを維持することはできました。

平成8年3月に都落ち気分地元へ帰り、三級海技士の口述を通しながら二級海技士の筆記にトライし、7月の定期で合格した後、内航タンカーの会社に部員として1年ほど勤めました。退職後、一級海技士の筆記に着手し、科目合格を駆使して3回目で合格しました。ここから本格的に就職活動を始め、27歳のクリスマスの時に、外航の船舶管理会社に採用されました。この会社では7年ほどお世話になり、短期間で高いキャリア、スキルを身につけさせていただきました。このときの経験が、今の仕事における自信の源になっています。

船会社に勤めていた頃の私に要求されていた「プロ」とは、「エンジニアとしてのプロ」だけでした。それに加え今の職場からは、「教育者としてのプロ」というものも要求されています。学生の頃の面接に始まり、船会社を経て現在の職場まで経験し、私が一貫して思うことは、「即戦力」という言葉とセットになることによって、組織のみならず個人の側から、「プロ」という言葉が、思考を停止させる麻薬のように使われている気がするということです。組織は、全ての構成員が何某かのプロになりさえすれば問題は全て解決し、今後も問題は一切起こらないと考えてそれ以上の対策を打とうとせず、個人は、自分が促成栽培されていることに気付かず、「Professional」という言葉が持つ権利的側面のみを目を向けて陶醉し、今以上、自分を向上させようとはしなくなる。これから社会に旅立つ皆さんに是非申し上げたいことは、これから皆さんが飛び込もうとしている世界は、こんな不条理な世界だということです。組織の体質はともかく、皆さんは、くれぐれも「Professional」という言葉の麻薬に溺死することがないように、常に自己研鑽し続ける意識を持ってください。皆さんが、本物の「Professional」になることを心から祈っています。





# 水大学園だより

独立行政法人水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## ご挨拶

—グローバルな視点を持った  
未来志向の水産人が世界を変える—

校長 濱野 明



水産大学校の教職員の皆様、保護者並びに関係各位におかれましては平素から水産大学校の教育・研究の向上にご尽力、また多大なる御支援を頂き、誠に有難うございます。本校校長として心からお礼申し上げます。

水産大学校は、今年で創立72周年を迎える我が国唯一の水産の冠を頂く高等教育機関です。大学評価・学位授与機構からは学士及び修士の教育課程としての認定を受け、名実ともに大学教育機関として国内外において高く評価されているところです。また、本校の英語表記が National Fisheries University と表されている通り、まさに、農林水産省及び水産庁、ひいては日本国の本校に対する期待が伺える所であります。この歴史と伝統を誇る水産大学校の校長として本年4月1日から重責を担うことになりました。身の引き締まる思いで、日々、水産大学校における学生教育と研究の向上に向けて邁進しているところです。

今年度も4月4日に入学式を迎え、本科215名、専攻科48名、水産学研究科12名の新生を迎えることができました。18歳人口の減少のもとで、地方私立大学等では定員割れなど厳しい経営状況が報道されるなか、本校での入試倍率は185名の定員に対し1000数十名の志願者があり、平均競争率5.6倍でした。このような独立行政法人移行後としては、最高の競争率のなかで、優秀な学生諸君を迎え入れることができました。また、出口である就職状況については、昨今の大学卒業者の就職難と言われるなか、95.5%の就職率、さらに水産業及び関連産業への就職率については、81.5%と、本校の設置目的であります水産業に貢献する人材の育成という成果を着実に上げているところです。これも偏に関係各位のご努力とご支援の賜物と感謝致しております。

さて、水産業は自然環境及び生態系と調和して初めて成立する産業であり、水産資源の安定的・持続的利用のためには自然との共生が重要であります。

21世紀の「持続可能な開発」という概念のもと、生態系と調和した持続的な漁業の推進を図り、限られた海洋生物資源を国際的な見地から適切に利用・管理していくことは、私たち「水産学」を学ぶ者に課せられた中心的研究課題です。前世紀末に国連食糧農業機関のFAOは、「責任ある漁業」という規範を提唱しました。日本は漁業先進国として、科学的根拠に基づく資源の持続的利用原則の基準作りや、21世紀における資源消費文明に対する見直し、さらに新たな漁業規範づくりに対しても、今後の重要な教育課題として取り組む必要があると私たちは考えています。このためには、「机上の学問」だけではなく、常に現場と結びついた「実学としての水産学」が重要となります。水産大学校では急激に変化する情勢に対応した教育・研究のあり方を常に検討し、基礎と実学が統合されたグローバルな視野から、各学科の専門分野だけでなく、基礎としてのリベラルアーツもしっかり学んでもらい、現場での問題解決能力を持ち、さらに豊かな想像力と実践的指導力のある人材に育ってもらうべく、教育の充実を図りたいと考えております。

吉田松陰先生の言葉に「山は樹を以てなり、国は人を以て盛（さかん）なり」があります。これは国を豊かにする根源は人材にありということを示されています。水産大学校における教育の真髄は、教室の内外で積極的に学生に接している教員の姿にあると思います。このような密着教育が本校の特徴であり、水産大学校を特別の教育機関にしていると考えています。教員一人一人の強い思いが、益々充実した教育に反映されることを期待している次第です。

最後になりましたが、24年度予算で建設中であった多目的学生教育棟（プールを含む）が完成し、今年度から海技実習での救助訓練や水泳実習並びに各種実験・実習に使用できるようになりました。完成にご尽力頂きました関係各位にお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



多目的学生教育棟

## 最近の話題

### 着任のご挨拶

水産流通経営学科 講師 岸上光克



平成25年3月1日付で水産流通経営学科流通経営講座に着任いたしました岸上光克と申します。専門は、地域づくり、食品流通、マーケティングであり、本学では「水産地域振興論」と「経済学」を担当しております。

兵庫県伊丹市で酪農家の長男（4兄弟）として生まれ、和歌山大学経済学部、大阪府立大学大学院農学生命科学研究科では農業経済学（食品流通・マーケティング）を学び、学位取得ののちシンクタンクに就職し、地域振興に関する業務を担当しておりました。その後、もっと現場に依拠した仕事がしたいと考え、30歳で家族とともに和歌山県紀南地域に移住し、田辺周辺広域市町村圏組合と田辺市役所で専門員として農林水産業を基軸とした地域振興に関する業務を行っておりました。和歌山県紀南地域では山間地域、農業地域、水産地域に住む方々とお話する中で地域の課題を抽出し、その解決方法をみんなで模索していました。市役所に座る時間は短く、多くは現場での仕事でした。水産分野では、地域のみで食されていた海藻類ヒロメの販路拡大事業、都市と漁村との交流事業等に取り組んで参りました。そして、このたびご縁があり、本学にお世話になることとなり、着任よりたいへん充実した日々を送らせていただいております。

講義後の学生の感想文のなかに、「これをすれば地域活性化するというポイントを教えてください（これ！という正解を教えてください）」というものがありません。これまで私は、現場の方と夜な夜なお酒を飲みながら地域活性化について意見交換をしてきました。現場の皆さんからは、「正解もなければ、ゴールもない、しっかりとした理念をもち楽しく取り組むこと、常に一步一步前を向き進んでいくだけ」ということを教えられました。これからの水産業・漁村を担う人材となる学生たちに、この現場から学んだことを可能な限り伝え、現場で活躍できる人材を輩出したいと思います。

同時に、公開講座や漁村との交流事業を通じて、地域の皆さんにも水産業・漁村のもつ社会的意義を伝え、協働のもと地域（産業）活性化に努めたいと考えております。

何かと至らぬ点多々あるかと存じますが、これまでの経験を活かし現場視点の研究を進めるとともに、本学の特徴である「実学教育」のもと水産業・漁村に貢献する人材の育成に努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

### 着任の挨拶

海洋生産管理学科 助教 田上英明  
(海洋生産管理学科51期)



平成25年4月1日付けで水産大学校海洋生産管理学科・資源管理学講座の助教として着任致しました田上英明と申します。私は、水産大学校の卒業生です。平成9年4月に水産大学校海洋生産管理学科に入学し、平成12年3月に同学科を卒業しました。その後、研究生として引き続き水産大学校に在籍した後、同校の水産学研究科にて就学しましたので、合計7年間、吉見の地で過ごしたことになります。

私が水産大学校に入学した年は、学科改組により学科名及び教室・講座名の改称が行われたため、私は海洋生産管理学科（旧漁業学科）としてのはじめでの入学生となりました。また、学科を卒業後、水産大学校が独立行政法人としての運営をスタートすることになり、その体制の下で水産学研究科に進学しました。このように私が学生として水産大学校に在籍した日々は、同校の組織変革の時期と重なり、その活気が学内にあふれる中で充実した学生生活を送ることができました。

諸先生方の熱心な指導の下で水産大学校研究科を修了し、その熱気冷めやらぬまま東京大学大学院に進学しました。東京大学大学院では、研究生として在籍した1年を含め、計5年間に亘り学生として在籍しました。主な研究活動は、水産大学校で実施してきたことを継続して行い「海丘における計量魚群探知機と地理情報システムを用いた魚群量の推定」という題目で博士論文の執筆活動を行い、学位（博士）をいただくことができました。その後、東京大学大気海洋研究所に特任研究員として採用いただきました。

東京大学大気海洋研究所では、高次捕食者を指標とした沿岸・海洋生態系モニタリングシステム構築に関する研究に従事致しました。特にバイオリギングという生物搭載型の行動環境記録装置を用いて魚類を対象とした調査をすすめました。その中で四万十川に生息するアカメと呼ばれる大型の魚類にカメラ等を取り付け、彼らの生息場等を発見することができました。その成果は、NHKやBBC等で報道されましたので、ご覧になられた方もいらっしゃるかもしれません。

アカメの研究成果が報道され、一般の方にも彼らの生態やその調査手法に興味を持っていただけた一方で、その魚をどのように管理していくべきかという課題が残りました。その課題の解決方法を検討するため、私は、海洋基本法等の制定に携わった海洋政策研究財団というシンクタンクにお

いて政策研究グループ研究員として資源の管理に関わる制度やそれらを制定するための合意形成に関する研究を開始しました。その成果の一部を海洋政策に関するオピニオン誌で報告する機会を得られましたので、ここの紹介いたします。「四万十川のアカメ調査から流域管理を考える. Ship and Ocean Newsletter, 289, 4-5, 2012.」([http://www.sof.or.jp/jp/news/251-300/289\\_2.php](http://www.sof.or.jp/jp/news/251-300/289_2.php))。

上述のとおり、上京後、約10年の歳月を経て、ようやく研究成果に一区切りを打つことができましたため、この度、水産大学校で学生の教育研究活動に携わらせていただくことになりました。現在の水産大学校は、私が学生だったころに比べ、校舎や施設も新しくなり、教職員の方々の姿からも新しい体制で船出した新たな水産大学校の変革の成果を感じることができます。

素晴らしい発展を遂げた母校において、諸先輩方とともに未来ある学生に接する機会をいただくことができ大変光栄です。これまでの経験を活かし、教育面の充実を図るとともに、後輩の皆さまの手本となり、学生生活の力になれるように日々精進していきたいと思っております。まだまだ若輩者であり、ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、今後とも、よろしくお願い致します。

## 着任のご挨拶

海洋機械工学科 助教 徳 永 憲 洋



皆さん、はじめまして。私は今年4月1日付で海洋機械工学科に着任いたしました徳永憲洋(とくながかずひろ)と申します。

私は九州工業大学の制御システム工学科を卒業後、九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻の博士前期・後期課程に進み、機械を知的に制御するための基礎となる神経回路網や脳の情報処理について学びました。また九州工業大学の研究室では、鯉の網膜細胞を取り出し、細胞に電極を刺して光応答特性を調べる研究を行ったり、脳における柔軟な思考や情報処理をコンピュータで実現するソフトコンピューティングに関する研究を行いました。

その後、九州工業大学で博士(工学)の学位を取得し、九州工業大学大学院生命体工学研究科で研究員を務めました。さらにその後、一般財団法人フェジシステム研究所で主任研究員として務めました。これらの研究員時には、主に「知的情報処理」あるいは「脳型情報処理」と呼ばれる分野の研究を行っていました。簡単に説明すると、脳で行われている情報処理メカニズムをコンピュータで実現し、機械システムの自動化やロボットの自律行動などに応用する研究を行っていました。また、一般財団法人フェジシステム研究所に在任中は、超音波信号の解析、画像処理に関する研究など幅広い分野で研究する機会が多く、多くの技術や経験を身につけられたと思っています。

以上の経験を得て、私は本年度の4月に水産大学校の教育職員として赴任することになりました。私はこれまでの経験を活かし、水産機械の自動化や海洋探査ロボットの開発など、水産業を支える新しい技術の開発を目指したいと考えております。また、人間のような柔軟な思考を行える脳型情報処理技術は水産業においてイノベーションを生み出すことができると考えており、水産業を発展させるべく今後も研究・開発に努めていく所存でございます。さらに、水産大学校の教育では、自身の幅広い研究経験を活かし、広い視野と分野横断的な思考ができる人材を育成できるよう努めてまいりたいと思っております。

本大学校に赴任して5ヶ月が経ち、業務や授業の準備などには慣れてきましたが、まだ至らない点多々あります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶申し上げます。

## 着任の挨拶

食品科学科 助教 谷 口 成 紀

本年4月1日付けで食品科学科、食品安全利用学講座に着任いたしました谷口成紀(やぐちしげのり)と申します。静岡県浜松市で生まれ育ち、山口大学農学部に入學いたしました。その後は、修士学生時代より始めた「野菜園芸学および遺伝育種学的観点からネギやタマネギ、ニンニクといったネギ属野菜の機能性成分の増強を目指した成分育種法の開発・研究」が面白くなり、鳥取・島根・山口の三大学により構成される連合農学研究科へと進学し、農学分野で学位を取得いたしました。



学位取得後、一年半は大学に非常勤研究員として残って研究を続けておりましたが、島根県産業技術センターが中核となったプロジェクト「高付加価値LED照明装置の試作研究」の一環で、農業利用LED(発光ダイオード)照明装置の開発を目標に、島根県は石見銀山の近くにありますがLEDメーカーに勤務いたしました。LEDはその波長選択性の高さから、光形態形成などの研究に多く利用されております。それまでの野菜研究の成果を生かし、機能性成分の増強が可能なLED照明の開発に携わっておりました。

そのような折、三重県にあります野菜茶業研究所で日本学術振興会の特別研究員として、「品質関連形質のゲノム情報解析と光質制御等によるネギ類の高付加価値化技術の開発」というテーマにて、ネギの高付加価値化を目指して研究を行うことになりました。学生時代に関わっていたネギの研究を再開することになったと言えます。その成果として、ネギの品質関連形質のゲノム情報の集積を行ったとともに、紫外光照射がネギ幼苗のポリフェノール増加に効果があること等を明らかにしてまいりました。

その後、様々な縁があり、異分野の研究背景を持

ちながら水産大学校に着任することになりました。学生時代より縁のある山口に再び戻ってきて、着任から三ヶ月あまりが経過する中、学生に指導すると同時に学生から様々な刺激を受ける毎日です。

植物を対象とした研究において、植物の状態・様子をつぶさに観察し、日々の変化を感じとり、状態の良い植物を育成・維持することは特に大切なことでした。これまでの研究で身に着けた対象を観察する視点や研究方法を水産研究へと応用できるよう努力いたします。また、魚類は可食部分が筋肉であるため、成分分析を行うにあたって植物とは少々異なる処理が必要となります。それらのテクニックを早急に習得し、水産食品の鮮度保持や保蔵のための研究に邁進したいと思っております。

以上、至らぬ点多々あるかと思いますが、今後のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 増養殖基礎実習での新たな試み

生物生産学科 助教 阿部 真比古

増養殖基礎実習は、生物生産学科1年生を対象とし、水産の増養殖に必要な環境要因測定、生物計測、人工授精等の基礎的な技術を習得することを目的としています。また、学生たちにとっては初めての実習ということから、野外での調査や観測等の共同作業を通じて、日頃から学生相互にコミュニケーションをとることの重要性を認識する場にもしています。

学生たちは4年間の講義・実習を通じて、様々な水産生物の生息環境を把握し、問題点とその改善・回復方法を学んでいます。これは「知識」を得ることです。近年は、海洋環境の変化により天然資源が減少し、増養殖環境の改善や資源の安定化が大きな課題です。そのため、漁業者自らが資源回復のための環境改善や種苗放流、漁期の制限などを積極的に行っている状況です。このような大きな危機感を持っている「現場」に学生たちが触れる機会は、これまでほとんどありませんでした。学生たちは、すぐに得られてしまう「知識」と長い年月をかけて活動する実際の「現場」の間に大きなギャップを持ってしまっていたのです。つまり、「現場」でも「知識」と同様にすぐに解決できると思ってしまうのです。そこで、「知識」と「現場」の違いを同時に体験してもらう場を、増養殖基礎実習の中で設けることになりました。

「現場」となったのは、山口県榎野川河口域干潟です。この海域は、かつてはアサリやクルマエビなどの好漁場でした。しかし、現在では最盛期の5分の1程度の漁獲となっています。特に、アサリは壊滅状態で、今ではほとんど採ることができなくなっ



榎野川河口干潟での耕耘作業の様子

ています。このため、榎野川河口域では、2005年から産官学民が協働・連携し、干潟の再生などを目的にアサリ稚貝の放流や二枚貝の減少により掘り返されず酸素不足になった干潟の耕耘を行い、資源回復に努めてきました。その結果、徐々にアサリなどの生物が確認されるようになってきています。今回、我々は山口県環境政策課の協力のもとで、4月27-28日にアサリ稚貝の放流と干潟耕耘作業に参加することになりました。

学生たちには、まず「知識」として作業内容（稚貝放流と干潟耕耘）とその背景を説明し、「現場」に向かいました。学生を含めた産官学民総勢約200名が、スコップやバケツなどを使って、干潟に足をとられながらこちらでは大小の畝を作り、あちらでは掘り返した砂を運んでいきます。さらに、干潟を歩き回ってアサリ稚貝を放流していきます。文章にするとたった数行ですが、実際には1時間半程度作業は続きました。レポートには、多くの学生が作業の大変さを綴っていました。加えて、漁業者の方を含め沢山の方々とコミュニケーションをとっていたことも書かれていました。「知識」と「現場」、そしてそれに関わる人々に関して、学生が感じたことは各々異なると思います。しかし、学生自身がこれから学んでいく生物と環境との関係性について、より「現場」に寄り添う意識を持つきっかけになったと思います。ちなみに、榎野川河口干潟は約370ha、今回作業した面積は約1haです。

## 着任のご挨拶

耕洋丸 三等航海士 濱谷 知宏

残暑の候、皆様におかれましてはご健勝の事と存じます。

ご挨拶が遅れましたが、平成25年4月1日付で練習船耕洋丸に着任いたしました濱谷知宏と申します。どうぞよろしくお願い致します。



はじめに経歴について、簡単に紹介させていただきます。出身地は北海道稚内市よりフェリーで2時間、花の浮島として知られる礼文島です。人口は約3千人、かねてより水産業と観光業が盛んな島です。今の時期ですと特産であるエゾバフンウニの水揚げがちょうど最盛期にある頃です。地元の中学を卒業した後は、親元を離れ札幌市内の高校へと進学いたしました。本校へは平成20年度に海洋生産管理学科へ入学いたしました。その後専攻科へと進学した為、合計で5年間お世話になった事となります。

専攻科修了後、耕洋丸三等航海士の職を拝命致しましてからは、海洋機械工学科2年生を乗船させての広島への航海、専攻科生を乗船させての天皇海山における調査航海と既に2つの航海を経験致しました。私にとってはどちらの航海も大変刺激的なものであり、まさに奮闘の4ヶ月間であったように思い

ます。中でも乗組員として乗船するが故に生じる責任の重さと言ったものを、改めて実感いたしました。

本船には学生時代にご指導いただいた乗組員の方々や、本校の諸先生方の中でも調査員として乗船されている方々も多数おられ、今となっても指導していただきながら勉強の積み重ねといった日々を過ごしているところでもあります。私自身の航海士としてまた社会人としての力量は、船長をはじめとした本船乗組員の方々には遠く及びません。しかし幼少からの念願であった航海士として働く事に対しての思い

は、誰にも負けない強いものを持っていると自負しております。また練習船という環境の下、微力ながらも海技士教育や国際共同調査等の一端を担う事が出来、同時に航海中生活を共にした学生達が成長した元気な姿で下船するのを見届ける事が出来るという点に、大きな誇りとやりがいを感じているところでもあります。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を祈念しご挨拶申し上げます。

## 在校生の声

### 水大生としての一步

水産流通経営学科1年 久田 遍

水産大学校に入学し数ヶ月が経った。入学当時の緊張感は和らぎ、休日はのんびり過ごす余裕もでてきた。一人暮らしを始めて困ったのは食事である。今思えば、実家では季節や行事に合わせた食材が食卓に並んでいた。一人暮らしを始めて、単調で恵まれない食卓へと変わった。

ある日思い直し、近所のスーパーの魚売り場を見てみた。実家近くのスーパーでは見たことのない魚が何尾も並んでいた。魚の種類が私の出身地の名古屋市内のスーパーよりも多く、魚売り場も立派だった。名古屋でもデバ地下に行けば珍しい魚は売っていたが、母は値段が高いと言っていた。魚の輸送方法は発展しているのだから、鮮度を維持したまま運べるのに、なぜ名古屋では手に入らないのかと疑問に思った。同時に魚の流通について興味と関心がわき、これから学ぶ「水産流通」について触れた気がした。

東日本大震災から、人と海との繋がりの深さは当時高校生の私にも感じとることが出来た。人は海との関わりを持ちながら生き、本来海を大事にする生き物なのだ改めて感じたのもその時だったと思う。海を大事にする一員として水産学を学び、将来、水産大学校で学んで良かったと言えるようになりたい。

### 大学生活を通して

海洋生産管理学科2年 平岡 純

私が水産大学校に入学してから2年目に入り、大学生活も慣れたものとなってきました。入学当初は環境が大きく変わったこともあり、戸惑うことも多々ありましたが、それだけ多くの経験ができています。その経験から、私が思ったことを述べます。

私は水産大の学生寮で暮らしています。共同生活を通じると、社会性を養うことができます。挨拶をしたり、共用部分をきれいに使うといった礼儀やマナーの大切さに気づくなど、寮生活は良い経験になっていると思います。また、色々な人と過ごし、助け合うことで、楽しく有意義な大学生活を送れています。

それから、私はダイビング部に所属しています。一年生の時は、先輩に教わりながらダイビングの知

識や技術を学び、二年生になると後輩ができて今度は教える側です。部活動では、先輩や後輩と交流する機会が多くあります。趣味や進路などについて話していると、自分とは違った様々な価値観に触れることができます。

私は大学の環境は、人生経験を積む大きなチャンスだと思います。今挙げたもの以外にも、ボランティアやアルバイトなど、大学生のうちにできることは色々あります。勉学に励むことは当然として、卒業までにもっと多くの経験をし、人間的に成長していきたいです。

### 三年生になった今

海洋機械工学科3年 安里 一也

私は、海無し県の長野県出身です。私の県では水産関係に携わる人がほとんどおらず、船乗りという仕事もまったく馴染みがありませんでした。私が高3に地元に戻ると、「漁師やっているんでしょ」、「魚いっぱい獲れたか」、「海賊王にはもうなれたのか」の三つは必ずと言っていいほど聞かれます。そんな私が船乗りを目指したきっかけは、高校卒業後、客船のウェイターを目指して入学したホテル・ブライダル専門学校でのオーストラリア・レストラン研修でした。そのレストランは港も近く船乗りの方々が多く利用されていました。そこで船乗りの方々と出会い話をし、自分自身でもどういった仕事なのか興味を持って調べたのがきっかけでした。

現在、三年生になり授業や実習の専門性が増して、より将来について考える事が多くなりました。今の私がやるべき事は、授業や実習、海技士免許の取得に取り組む事はもちろんですが、多くの情報を集める事も大事だと思っています。その機会は学校内外、あらゆるところに沢山あると思います。私の場合、アルバイト先にお客さんとして水産関係の方や船乗りの方がよく来られ、話を聞く機会があります。私がそこで、船内生活や外国人乗組員とのコミュニケーションの取り方など様々な話を伺うことが出来ました。中には船乗りの旦那さんを持つ奥さんの苦労話もありました。

先生方や先輩方、実際に働いている方々との会話する機会はとても貴重で、有益なものです。残りの学生生活はこのような出会いを大事にして、これからの自分の将来を考えて行きたいと思っています。

## 水産大学校に入学して

食品科学科1年 瀬口 碧

入学して早くも4カ月が経とうとしていますが、ここ水産大学校でしか出来ない「海」や「食」に関する勉強・体験の日々にとっても充実しています。

私の所属する食品科学科では「魚餐の科学と文化」という科目があります。この科目では、魚の捌き方や魚食文化について学びます。これまでにアジ、フグ、イワシ、タイを実際に捌き、それぞれ捌き方が異なること、それぞれの違いに意味があることを学ぶことができました。この「魚餐の科学と文化」は他のどの大学を探しても無い、特徴的で面白い科目だと思います。そんな貴重な講義を受けることができることに感謝しています。

部活は男子カッター部と水泳部のマネージャーをしています。カッター部では、合宿をしている部員のために夕食を作り、カッターに乗り艇長として舵を取っています。私は寮生なので料理を作る機会が少ないのですが、部活で作ることができて、また部員みんなに美味しいと言って食べてもらえてやりがいを感じています。水泳部では主にタイムを計る仕事をしています。最初は全くできなかったことができるようになってきて、続けることの大切さを感じています。

これからの水大生活でも色々なことを経験できると思うととてもワクワクします。常に感謝の気持ちを忘れずに、水大での大学生活を楽しみたいと思います。

## 大学生活

生物生産学科2年 桑迫 雄也

水産大学校に入学してからあっという間に1年が過ぎ、私の大学生活は2年目に突入しました。勉強、部活動、アルバイトやボランティア活動等と毎日が非常に充感した大学生活を送っています。1年次は講義の多くを教養科目が占め、2年生になってからは魚類の病気を理解するための魚病診断治療学やプランクトン等について学ぶ浮遊生物学、水産生物の

養殖について学ぶ水産動物増養殖学等の専門的な講義や実験が多くなり、よりいっそう水産に関することを学ぶ機会が増えました。毎回の講義や実験が私にとって新鮮であり意欲が湧きます。

部活動では、先輩方や同期を通して魚の種類、魚の採集・飼育方法など、講義や実習時のみでは学べないことを学べ、より一層魚を好きになりました。アルバイトに関しても大学食堂と家庭教師を兼任し、改めてお金を稼ぐ事の大変さ、次に何をすればいいのかと先々を見据えた考え方、人に物事を教える、伝えることの難しさが分かりました。

あと2年半しかない大学生活を今後も充実したものとなるように多くのことを経験し、学んでいきたいです。

## 研究科での生活

水産学研究科1年 鴻上 健一郎

私の所属する機械情報システム研究室では、鮮魚の目利きの技の解析、魚の体表における色彩から鮮度を推定するモデルの設計と品質管理システムの構築を行っています。例えば、スーパーの鮮魚売り場で、瞬時に、魚の外観から鮮度を目利きのレベルで推定してくれるシステムがスマホにあれば便利だと思いませんか？ また、非破壊かつリアルタイムに鮮度を推定できるため、水産物の流通の過程においても品質管理に役立つものです。時には実験が終了した後、内臓の状態を確認して、品質に問題がないと判断した場合には味見をすることもあります。いくつかの魚種では徐々に味もわかるようになりました。

研究科生の一日は、研究は勿論のこと授業もあり、課題やレポート作成などもあります。研究を進めつつ、これらのことをこなすためには時間の使い方が非常に重要です。自分で目標を立て、それに向かって計画的に時間を使っていかなくてはなりません。自分はそれが出来ていないので非常に苦労していますが…。また、疲れた時には部活動などに参加して汗を流すようにしています。このような毎日で、難しいことも多くありますが非常にやりがいのある日々を送っています。

## クラブ紹介

### バレーボール部

バレーボール部部长

生物生産学科3年 岡本 訓明

私たちバレーボール部は現在、男子部員25名程、女子部員15名程で練習は週3日行っています。男女合わせて40名もの部員がバレーボール部に所属していますが、その多くは大学からバレーボールを始めた初心者で、バレーボールの経験者は僅かです。練習では、バレーボールの経験者が初心者を指導するという形で各自、目標を持って練習しています。

また私たちバレーボール部は大会にも積極的に参加しています。出場している大会は、毎年春と秋に開催される山口県大学高専リーグ大会や中国大学リ

ーグ大会、北九州・下関インカレ、さらに山口県の土井ヶ浜海水浴場で開催されるビーチバレーボールフェスティバルなどに参加しています。平成25年度山口県大学高専リーグ大会春季大会では、Cリーグ優勝という好成績を収めることもできました。

バレーボールは、チームワークが非常に重要なスポーツだと思います。バレーボールは縦横9mのコートの中で、6人でボールを床に落とさないように相手のコートに返し、その上で相手に攻撃をしなければなりません。コートの中



にいる6人の選手の息が合っていないと、試合にもなりません。
私たちバレーボール部は、普段の練習を通じて仲

間とのチームワークを磨き、部員全員で力を合わせてこれからの大会に向けて練習に励みたいと思います。

学生部だより

平成24年度における就職対策と進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 酒井治己

本校では学内に「就職対策検討委員会」を設置して学生の就職支援を行っています。委員会は、委員長(学生部長)と各学科長および1年生～3年生のクラス担当教員からなる委員で構成され、事務局として学生課がこれを補佐しています。

主な活動は、(1)3年生を対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストの実施。(2)就職活動の専門講師やその他様々な分野で活躍されている講師を招いた就職ガイダンスの開催。(3)就職手引き書「UniCareer マガジン—大学生の就職編—」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導。(4)各学科の就職担当者および学生部職員が、水産

関連企業・団体等を訪問し、本校および本校学生の紹介を行うとともに、訪問企業等の人事計画や採用情報の把握。(5)毎年1月末に開催している合同企業説明会等です。

特に、本年1月26日(土)に開催された、本科3年生、専攻科進学予定の4年生および研究科1年生を対象とした合同企業説明会には、近年の不況にもかかわらず、本校からの採用実績のある企業80社の参加があり、企業側、学生側から熱心な説明や質問が行われ、参加した学生からも好評を得ました。

このような活動の結果、平成24年度卒業・修了者の就職希望者176名(本科119名、専攻科49名、研究科8名)の就職率は95.5%で、このうち水産関連分野に81.5%が就職しました。

なお、本科、専攻科、研究科における進路状況および進学・就職内定率は別表の通りです。

平成24年度卒業・修了者の進路状況

平成25年3月31日現在

Table with columns for Faculty/Department, Graduation/Completion, and Job Placement/Rate. Includes sub-sections for Water-related fields and Specialized courses.

【就職先の分類】

水産関連分野

- 各種団体: 水産に関する団体(漁業、流通、船舶等関係団体)
漁業・養殖業: 水産動植物の採捕又は養殖の事業者
水産加工: 水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者
水産流通: 水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者
調査開発等: 海洋水産関連の調査会社
資機材供給等: 水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者
その他: 水産業関連分野以外の公務員・団体・企業など

平成24年度卒業生進学・就職状況一覧表

平成25年3月31日現在

<p>◎進 学 (大学院等)</p> <p>九州大学大学院 京都大学大学院 神戸大学大学院 水産大学校研究科 水産大学校専攻科 東京海洋大学大学院 宮崎大学大学院 横浜国立大学大学院</p> <p>◎就 職</p> <p>官公庁</p> <p>大分県職員 京都府職員 (船舶) 佐賀県職員 (船舶) 島根県職員 (船舶) 下関市消防局 鳥取県職員 (船舶) 長崎県警察 函館市職員 広島県職員 北海道職員</p> <p>水産関係等各種団体</p> <p>愛媛県漁業協同組合連合会 香川県漁業協同組合連合会 (公財)北九州生活科学センター 滋賀県漁業協同組合連合会 (一財)新日本検定協会 (独)水産総合研究センター (独)水産大学校 (船舶) 全国漁業協同組合連合会 全国合同漁業共済組合静岡県事務所 (国大)東京海洋大学 (船舶) 内海水先区水先人会 兵庫県漁業協同組合連合会 榎野川漁業協同組合 三重県漁業協同組合連合会</p>	<p>民間企業等</p> <p>朝日工業社 あじかん 安部水産 アヲハタ イイノガストランスポート イオン九州 イオンリテール 伊藤忠飼料 いなげや うおいち 宇部興産海運 エクセルマリン えびせんべいの里 オイシス 尾道造船 尾鷲物産 海星ムサシ カクサン食品 角上魚類 カップ・クリエイト カネリョウ海藻 川崎汽船 技研興業 九州ベストフーズ 九州郵船 共栄マリン 共同船舶 極洋 Coo&amp;RIKU 東日本 久世 クックチャムプラスシー クラハシ 桑宗 航海訓練所 (船舶) 五栄土木 コープ食品 コスモス薬品 コンピュータネットワーク 桜が丘クリニック</p>	<p>山九 三徳船舶 山陽食品工業 下関唐戸魚市場 ジャパンシーフーズ 商船三井 上福水産 ショクリュー 住友金属物流 ゼニライトブイ ゼンショーホールディングス 第一中央船舶 ダイキンアプライドシステムズ 大黒天物産 大水 ダイハツディーゼル 大洋エーアンドエフ 太陽建機レンタル TAIYO 平興産 高田魚市場 拓洋 千曲屋 チャーム 中外テクノス 中冷 津軽海峡フェリー ティエラコム 天生水産 東栄リーファーライン 東京水産ターミナル 東洋水産 遠山 友田セーリング トヨタ生活協同組合 トライアルカンパニー 内海造船 ながの農業協同組合 ニシショウ産業 ニチモウ</p>	<p>ニチレイロジグループ本社 日新化工 日新興業 ニッスイマリン工業 日東製網 日本海洋事業 日本クッカー 日本サルベージ 白菱 はま寿司 春風海運 ハローズ ハローデイ 阪九フェリー 日阪製作所 広島水産 富士メガネ プライムデリカ フラワーオークションジャパン フランソア ホンダ水産 マックスバリュ九州 マックスバリュ西日本 丸久 丸福水産 万代 美須賀海運 源吉兆庵 三原汽船 名門大洋フェリー 森松水産冷凍 ヤマエ久野 大和産業 ユーコー ユーシーシーフーツ リカースペース太陽 琉球海運 輪島漁業生産組合</p> <p style="text-align: right;">五十音順</p>
--	---	--	--

平成 25 年度入試状況

本校の平成 25 年度入試状況をお知らせします。推薦・一般入試の志願者総数は 1039 名でした。

昨年 11 月に実施された推薦入試には、全学科で 199 名の応募があり、また、今年 2 月に実施された一般入試には全学科で 840 名の応募がありました。

一般入試の学科別応募状況は、水産流通経営学科 61 名 (募集人員 12 名に対する倍率 5.1 倍)、海洋生産管理学科 117 名 (募集人員 23 名に対する倍率 5.1 倍)、海洋機械工学科 86 名 (募集人員 24 名に対する倍率 3.6 倍)、食品科学科 167 名 (募集人員 27 名に対する倍率 6.2 倍)、生物生産学科 409 名 (募集人員 18 名に対する倍率 22.7 倍) でした。

一般入試の過去 6 年間の志願者数の推移は、19 年度 636 名、20 年度 453 名、21 年度 567 名、22 年度 653 名、23 年度 675 名、24 年度 665 名でした。平成 25 年度一般入試志願者数の対前年度比は 126.3 % であり平成 18 年度以降の最高値となりました。推薦入試では推薦入試制度導入以来最大の志願者数でした。また、推薦・一般入試の志願者総数 1039 名は、独法移行後最大の値でありました。これは、高校訪問、進学ガイダンスやインターネットを用いた情報提供など広報活動の強化を行った結果であると推察しています。今後も広報のあり方、入試制度の見直しなど、社会のニーズに沿って、本校の特色と個性豊かな教育方針を全面に打ち出し、魅力ある大学校となるよう一層努力する所存です。





# 水学園だより

独立行政法人 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 平成26年にあたって

### 理事長 鷲尾 圭 司



水産大学校のある下関市といえば、河豚（ふく）が有名ですが、もう一つ壇ノ浦の源平合戦も欠かせない歴史です。その関門海峡には奇妙な甲羅をした平家ガニがおり、滅亡した平家の怨念がこもっていると言われます。さらに、あまり知られてはいないのですが小平家（こべけ）と呼ばれる

小鯛の伝説も伝わっています。

瀬戸内海の海峡といえば、明石も鳴門もマダイの名産地です。しかし、関門ダイというのはあまり聞きません。実際に関門海峡では40センチを超えるような大きなタイは見当たりません。手のひら程度の小鯛はたくさんいるが、どうして大きなタイはいないのか？ これこそ平家のたたりだと伝えられているのです。その怨念を抑えてもらうために、海に身を投じた女官たちが小鯛になって群れていて、地元ではそれを小平家と称して愛おしんでいます。

タネを明かせば、マダイは色の赤さがおめでたい特徴ですが、赤い魚は深い海に生息します。関門海峡は壇ノ浦あたりでは水深が12,3メートルしかなく、大きなタイが潜むには深さが足りないのです。海峡は潮流で浸食され、徐々に深く広がっていくものですが、関門海峡は出来て6千年という若い地形で生じた珍事だったのです。

このように流れている情報に接したとき、その背

景に踏み込み、科学的な洞察を試みると新たな状況認識ができます。水産大学校は就職に有利な高等教育機関ですが、大人として社会に出る人材育成機関です。単位をそろえるだけでなく、各方面に好奇心を向け、人や自然を愛する目をもつ人材は、どんな難問に出会っても立ち向かえると思います。

さて、昨年末の閣議決定で、水産大学校は同じ水産庁の傘下にある水産総合研究センターと一つの法人に統合されることが決まりました。二年先のことですが、この下関のキャンパスを基点に、全国9つの研究所をはじめ多くの栽培事業場をもつ水産研究の最前線とつながった人材育成が可能になります。

水産業界が低迷しているといわれる時期だけに、全国から集まる本校学生が、まさに全国の水産現場に向けて活動の場を広げられることは大きなチャンスだと考えます。「強い水産業」はライバルを押しよける強さではなく、弱い立場にも目を向け、手を伸ばすことのできる自立した「強さ」です。水産の世界では「奪い合えば足りず、分かち合えば足りる」という共助の精神が求められます。それを身につけるためには、狭い専門性にばかりこだわらず、広い視野と行動力で、水産の世界を総合的に理解することが必要です。

和食がユネスコの無形文化遺産に登録されました。その和食を構成するのに水産物は欠かせません。主役にも脇役にも欠かせない海の幸を、先祖から伝えられた知恵と新しい工夫で守っていくことも本校の役割だと思います。「おいしい水産」を一緒に体験していきたいものですね。

これからも水産大学校の役割をしっかりと果たしていきたいと思っておりますので、関係者の皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 最近の話題

### 着任のご挨拶

#### 水産流通経営学科 伊藤 宗 平



平成25年4月1日より水産流通経営学科水産基礎講座に着任いたしました伊藤宗平（いとう そうへい）と申します。着任以来8か月余りが過ぎ、こちらでの生活にもだいぶ馴染んで参りました。

私は東京工業大学で計算機科学を学び、数理的な手

法を用いてソフトウェアシステムの検証・開発を行う技術について研究してきました。学位取得後は、東京工業大学で特任助教、東京大学で特任研究員として勤務したのち、本校に採用いただきました。

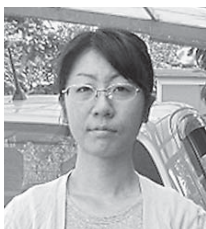
私の研究テーマである数理的システム解析法は、数理論理学や代数学といった、数学的理論に基づいた手法のことで、計算機システムやプログラムを数学的枠組みを用いて解析するものです。私はこの手法をソフトウェア分野に限らず、他の分野、例えば生命科学や知識工学分野に応用することにも取り組んでいます。一例として知識工学分野への応用を挙げますと、企業経営モデルなどに使われるビジネス

オントロジ（オントロジ：知識構造の表現）について、形式的に体系化・公理化することにより、厳密な理論に基づいてオントロジを定義し、どのような定理が成り立つかについて研究しています。こうした研究を漁業経営の分野にも広げ、漁業経営のエキスパートである本学科教員の方々とともに研究交流しつつ、漁業経営特有の知識構造を見出し適切なオントロジを構築することにもこれから取り組んでいきたいと思っております。

一般に大学というと、学問的な教育・研究に重点が置かれます。私もそのような教育を受けてきました。しかし、本校へ着任し、本校の教育業務に携わるようになってから、本校の実学を重視したカリキュラムに感銘を受けました。近年では、企業は高度な知識・スキルを持ち、即戦力となれる人材を求めているようになっています。そうした意味で本学の実学重視の方針は大変的を射たものです。今後とも社会の早い変化に対応しつつ、真に役立つ知識を持った人材を輩出するために職務に邁進していきたいと思っております。若輩者ゆえに至らない点が多いですが、様々な面で皆様のご指導を賜りつつ、私自身も成長したいと思っております。今後ともよろしく願い申し上げます。

## 着任のご挨拶

水産流通経営学科 助教 西村 絵美



平成25年4月1日付けで水産流通経営学科・流通経営講座に着任いたしました西村絵美と申します。専門は水産経済学で、本学では「水産資源経営管理論」と「食料経済論」を担当しております。

私は、福岡県古賀市で生まれ育ち、近畿大学農学部を卒業後は東京海洋大学大学院に進学して、昨年の春まで地域漁業を担う漁業者集団と、彼らによる水産資源の管理・経営管理のあり方について研究を行ってきました。教員となった現在も、引き続き「漁業者集団と漁業管理」をテーマに、漁業の操業や水産資源の管理をめぐる漁業関係者間の意見の調整がどのように行われているのか、またそれらが合意に至る過程を社会科学的な見地から調査し、現場の実践に学びつつ研究を進めています。

今日の水産業をとりまく厳しい情勢の中で、我が国の漁業者は、地域の同業者と協力しながら様々な現場の課題に対応しています。水産資源の管理もその一つであり、これからの水産業の持続的な発展にとって、資源管理を担う人材の育成は大変重要な課題です。今後とも、「水産現場から学ぶ」ことを信条に、漁業者集団による資源管理、経営管理、流通対応等についての実態調査研究を継続し、その研究成果を水産教育に還元して、今日の水産現場の課題に応える人づくりに貢献していきたいと考えております。そして、私自身もこの海と山に囲まれた自然豊かなキャンパスで、水産大学校の学生の皆さん

と共に成長しながら日々精進して参りたいと思っております。

水産大学校は、その創立から70年余の歴史を持ち、これまでに水産業界で活躍する多くの優秀な人材を輩出してきた高等教育機関です。このような伝統ある学校で、これからの水産業を担う人材の育成に携わることができ、大変光栄に感じております。研究者、また教育者としてもまだまだ経験が浅く、至らぬ点が多くございますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、心より宜しく願い申し上げます。

## 釜慶大学校水産科学大学(韓国釜山)との学術交流会

海洋生産管理学科 今井 千文 (実行委員)



両大学の学術交流会参加者

釜慶大学校からの  
広安大橋の眺め



本校と韓国釜山市の釜慶大学校水産科学大学は、1995年以来、学術交流会を下関と釜山で交互に開催しています。今回は、2013年12月に第19回交流会として、水産流通経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科の代表が釜慶大学校を訪問した概要を報告いたします。

第17回まではシンポジウム形式で教員だけの交流でしたが、一昨年の第18回交流会では、大きな進展がありました。下関に入港した練習船 Kaya 号に乗船した学生、留学生が交流に加わりました。そこで、今回の訪問でも学生間の交流をはかるため、女子2名を含む研究科生11名を同行させました。訪問団は、鷲尾圭司理事長、須田有輔研究科長に加わっていただき、教職員は6名、総勢17名でした。

2013年12月9日の早朝に下関を発ち、北九州空港より50分の短いフライトで、あっという間に釜山近海空港へ、昼前には釜慶大学校に到着していました。メインキャンパスである大淵キャンパスは、ホテルや銀行まで備えた立派な施設です。午後からは、翌日の打ち合せと龍塘キャンパスでLED関連の検査などを行う研究所の見学をしました。夕刻に

は観光名所、海雲台に近い韓国伝統料理の店で歓迎会を開いていただきました。この間、研究科生はチャガルチ市場を案内してもらうなど、学生同士の交流を楽しんだようです。

2日目は、午前中に釜慶大学校総長の金榮燮氏を表敬訪問し、昼は張瑛秀学長自ら引率していただき、研究科生も一緒に韓国風中華料理をいただき、学生諸君は海辺散策も楽しむことができました。午後からはいよいよ本番のシンポジウムです。張学長と鷲尾理事長の挨拶に続き、私に対馬海峡周辺の底魚資源についての、大原順一先生が冷凍機のフィンの改良に関する発表をしました。この後、両校学生の英語による1分スピーチが行われました。韓国留学経験がある加藤めい子さんは流暢な韓国語で話し、喝采を浴びていました。続いて、川崎潤二先生による新規漁業者の研修、児玉 工先生のベニズワイガニの資源管理に関する研究発表がありました。

終了後、短時間ではありましたが、両校の学生のポスター発表討論会が行われ、忙しく大型バスに乗り込み、夕食会場へ向かいました。海に近い高台にあるホテルの広いビュッフェでバイキングを楽しませていただきました。学生たちはとても喜んだ様子で、和やかな中に中身の濃い交流会となりました。ひとえに、コーディネーターの申鉉玉先生はじめ、釜慶大学校教員の皆様の懇切なご協力の賜であり、深く御礼申し上げます。最後になりましたが、この交流会が、水産大学校後援会からの手厚いご援助の上に成り立っていることを心より感謝申し上げます。

## 着任のご挨拶

海洋機械工学科 石田 武志



平成25年9月1日に海洋機械工学科海洋機械工学講座に着任しました石田武志と申します。専門は機械工学であり、学科の「工学基礎」、「海洋水産機械概論」などの科目を担当しています。また技術士資格を保有しているため全学科2年生向けの「技術者倫理」を昨年度から担当しています。

出身は東京都の下町で、現在東京スカイツリーがある墨田区で育ちました。東京理科大学大学院の修士課程を卒業後、(財)日本システム開発研究所で、環境・エネルギー分野の調査研究に約13年間携わってきました。その間に働きながら博士課程に入学し博士号を取得しました。その後、埼玉県にある日本工業大学に移り、講師、助教授を経験しております。

研究分野は、主にエネルギー・環境・生命分野のシステム分析やシミュレーションを手掛けています。特に近年は、生物の形態形成機能をエネルギーシステムの構築に応用できないかなどを研究しています。さらに、環境問題や地球・生命システムを「エントロピー」や「エクセルギー」という視点でみていくという講義を前職で行ったのを契機に、古代文明や

未来社会の社会構造をエクセルギーやエントロピーで考えていくという内容の本を執筆し刊行予定です。書籍名は、『システム工学で描く持続可能文明の設計図 ～文明設計工学という発想～』（大学教育出版）であり、人類の知を結集することで次にくる文明のパラダイムシフトを「設計」できるのではないかと提案しています。衰退していく日本の憂鬱な未来予測ではなく、未来の社会システムを自ら設計する方法を提案しています。書籍の中では、海の資源をベースにして持続可能社会を築く「海の文明」という点にも触れています。ぜひ興味のある方はお読みいただき、それぞれの専門の検知からご意見やアドバイスをいただければと思います。

何かと至らない点もあるかと存じますが、今後ともよろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 着任のご挨拶

食品科学科 教授 宮田 昌明

平成25年5月1日付けで食品科学科食品機能学講座に着任いたしました宮田昌明と申します。着任して半年以上がたち、授業や実習などを実施していく中でやっと水産大学校にも慣れて参りました。



私の出身は広島市で東京工業大学大学院理工学研究科の化学専攻を修了した後、企業に勤務しましたが、慶應義塾大学医学部（薬理学教室）で学位を取得し、本学に赴任する前は東北大学大学院薬学研究科に所属していました。東北大学では、コレステロールから生成される胆汁酸の生理作用について研究していました。胆汁酸は消化管で脂溶性ビタミンや脂肪などの栄養素の吸収を促進させる働きが有るだけでなく、いろんな受容体を介して様々な作用を生体に及ぼすことが報告されており生体の機能の研究には格好の素材です。私の担当する食品機能学は消化管から吸収される食品成分の機能性を研究する分野ですからこれまでに培ってきた胆汁酸に関連する機能解析の技術や知見を水産大学校での食品科学科の教育、研究に生かしていければと考えています。特に魚や海藻などの水産物中にはヒトの健康に有益な成分が多く含まれていることから、これらの機能性成分を有効利用した水産食品の研究開発に関わっていければと考えています。

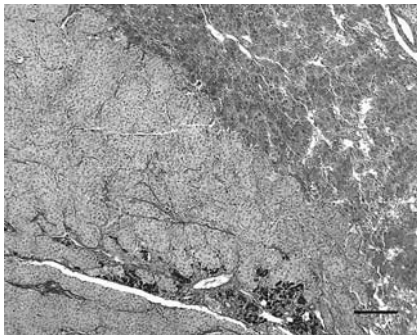
私は理学部化学科の出身であり、水産大学校では基礎的な化学の教育にも携わり化学的な考え方を大切にして、その上で医学部や薬学部で身につけた生理学的知見も取り入れながら教育、研究を進めていこうと考えています。また私は企業での勤務や、海外の研究所での研究などいろんな経験を積んで参りました。これらを基礎にして、今後の水産大学校での教育・研究に関わっていきたいと考えています。何かと至らぬ点が多々あるかと存じますが、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 研究科競争的資金を活用した研究について

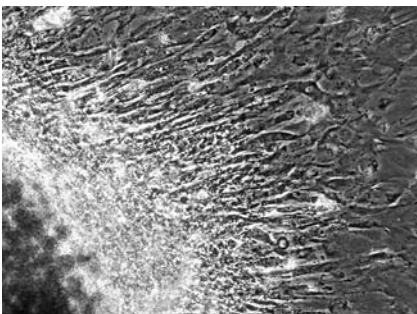
生物生産学科 安本 信哉



腹腔内に腫瘍を形成したコイ



◀肝臓組織に転移した腫瘍組織。  
左下：腫瘍組織  
右上：肝臓組織



◀フラスコ内で培養された腫瘍細胞。左下の抽出された腫瘍片から新たな腫瘍細胞が増殖し始めている

研究科競争的資金は平成16年度から始まった制度で、水産学に関する研究課題を募り、プレゼンテーションを行って投票により採択し、配分される資金です。本年度、この資金を獲得し、それを活用して魚類の腫瘍に関する研究を行ったので、その紹介をさせていただきます。

腫瘍と言えば癌を連想し、癌はヒトの病気と思われる人も多いかも知れませんが、実は様々な動物で発症するものなのです。そして魚類も例外ではなく、魚も癌になるのです。しかし、癌がヒトの死因の上位を占める一方で、魚類では非常に稀なケースである場合が多く、魚類の腫瘍に関する報告は古くからあるものの、その件数は非常に少ないのです。また、ヒトや高等動物の腫瘍は、種々の腫瘍から得られた細胞を培養し、培養細胞が作出されています。この培養細胞は、病気の研究はもちろんですが、

様々な研究分野で利用されています。一方、魚類でも色々な種類の培養細胞がありますが、腫瘍組織由来としたものは多くありません。そこで本研究では、腫瘍を形成したコイの病徴および腫瘍の組織学的特徴を調べるとともに、腫瘍組織の培養を試みました。

発病した魚の外見は腫瘍で腹部が膨満し、腹腔内（内臓のあるところ）には大小様々な大きさの腫瘍がありました。腫瘍は内臓圧迫し、機能障害を引き起こしていました。腫瘍組織は、腫瘍細胞の豊富な実質と結合組織からなる間質によって形成されました。さらに、他臓器への転移も認められました。また、腫瘍組織の初代培養（最初に取出した細胞をフラスコ内で培養すること）に成功し、培養細胞として使用できることが期待されます。

この結果は、数少ない魚類の腫瘍に関する知見として重要であり、腫瘍細胞が培養細胞として確立されれば、様々な研究への利用が期待されます。

最後に、この研究科競争的資金は非常に活用性が高く、有用な資金と感じており、獲得できたこと大変感謝しております。

## 着任のご挨拶

天鷹丸甲板専任教員

兼次席一等航海士 後藤 洋史

今年度より本校練習船、天鷹丸甲板専任教員兼次席一等航海士として赴任いたしました後藤洋史と申します。

私は愛知県出身で、平成15年年度本校専攻科を卒業し、水産庁に入庁しました。その後、水産庁及び独立行政法人水産総合研究センターの様々な調査船、取締船を経験してきました。

現在に至るまでの乗船経験の中には漁業取締業務のため違法外国漁船への乗り込み、マリアナ諸島北西海域におけるニホンウナギの産卵場調査、海外まき網漁船と共同で行ったメバチマグロ混獲回避技術観察調査、テレビクルーと共に日本海における大型クラゲ調査、ペルー人研究者らと共同で行うペルー沖のアメリカオオアカイカ資源調査等の水産に関わる様々な分野において貴重な体験をすることができました。

これらの乗船経験の話を学生達に話をする、学年学科に関わらず、全ての学生が興味を持ち、真摯な態度で受け入れてくれることに改めて身の引き締まる思いです。

本校には自身の目的や明確なビジョンを持つ学生が多く、またその先にある何かを掴みとるためにどのように今後の学生生活を送ったらよいか、今後自分がどのようにあるべきかと悩む学生から相談を受けることもあります。若さと夢を持ちつつも将来について苦悩する学生達と共に過ごせるということは私自身も成長し、感動を覚えています。

航海中は学生達にとって決して楽ではない生活環



境にあります。しかし、そんな航海中には美しい日出没の海の素顔、満点の星空、水平線をまたぐ虹、飛び跳ねるイルカの群れなどに会うこともあります。そんな美しい海の姿を初めて目の当たりにし、興奮する学生達を見守ることができるのも練習船の

素晴らしさの一つであると感じています。

新しい職場で新しい職務のために学ばなければならないが多々あります。今後とも皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりよろしくお願い申し上げます。

## 就職活動

### 就職活動を終えて

水産流通経営学科4年 柴田 光太郎

就職活動中、私は非常に焦った。同じ学科や学校の友人が次々と内定を勝ち取っていくことに焦り、内定を取る彼らと自分とでは何が違うのか。自分の何がダメなのかと「就活の正解」をひたすら探した。就活支援本やネット上から「企業が求める人材」を調べ、自分はそれになりきろうと努力したが、その結果は惨敗。傷心した私は、本校の就職支援室に相談に行ったところ、下関で行われる合同企業説明会への参加を薦められた。

その説明会では就活支援本やネット上にある「企業が求める人材」を演じるのではなく、普段の自分を出して採用担当者と話すように心掛けた。すると、ある企業の方が「君を気に入った。ぜひ君がほしい」と言ってくれた。こんな自分を必要としてくれる企業があるのだと、私は嬉しくなり、そして胸が軽くなった。この体験をきっかけに、その後は、ありのままの自分を出して面接に挑み、数社から内定をいただくことができた。

就職活動に挑む皆さんは、企業から届く「不採用」通知に挫けないでほしい。君たちを必要としている企業は必ずある。周りに流されず、自分自身を持って後悔のない就職活動をしてください。

### 私の就職活動

海洋生産管理学科4年 中村 雄一

私の就職活動は、1月に本校で開催された合同企業説明会から始まりました。以降、5月末まで間に、東京、大阪で開催される会社説明会に何度も足を運びました。なんとか内定を勝ち取りたいと思い、就職活動中のわずかな移動時間を惜しんで、SPI対策、企業研究を行いました。活動期間中、1次試験のSPIやグループ面接で落とされ、落ち込むこともありました。しかし、それでもくじけずにチャレンジを続けた結果、最終的には希望していた企業から内定を頂くことができました。私が就職活動を通して大事なことだと思ったのは、少しでも興味がある企業には遠方であろうと、できる限り説明会に参加することです。本社で説明会を行っている企業もあり、HPや企業パンフレットでは伝わらないその企業の魅力や会社の雰囲気を知ることができます。また、仮にその企業の業務内容が自分のやりたいことと違うと思っても、その業界を知るいい機会になりました。私は滄溟会名簿を活用して、興味がある業種の関連企業には積極的に会社訪問を行いました。就職活動をした5か月間はたいへん辛いものでしたが、その

体験を通して様々な人に会い、話を聞き、自分自身を見つめ直すことができ、また、自信を深めることができました。皆さんには、仮に不採用の通知が来ても、落ち込んだ気持ちを引き摺らずに、次へ気持ちを切り替え、チャレンジし続けて欲しいと思っています。

### 就職活動を終えて

海洋機械工学科4年 山口 桃子

私は就職試験での、初めての面接の時のことをよく覚えています。その時は緊張しており、自分が話したかったことの半分も話せませんでした。面接官の方から予想していなかった質問をされ、しどろもどろになりながら返答し、面接官の方の鋭い視線に委縮していました。私は、完全に面接を侮っていました。何事もやってみないとわからないものです。その初めての面接を反省し、面接の練習をしよう！と決めたことをよく覚えています。最初の面接で思い切り恥をかき、反省できたのが、結果として良かったのかもしれない。

その後、志望している企業のパンフレットや面接対策の書籍を熟読し、面接の練習は、友人に面接官役を引き受けて貰いました。また、その練習の様子をビデオに録画しておき、後から自分で確認するようにしました。結果的に、私は就職活動の際、面接対策に一番時間を掛けたと思います。そのおかげで、第一志望の企業の面接では、素直に自分を表現することができ、内定を頂くことができました。

就職活動に向き合う上では、たとえ失敗をしても、次に生かすことが大切だと思います。これから就職活動をされる方は、失敗を恐れず、ぜひ前向きに取り組んでください。

### 私の就職活動

食品科学科4年 竹内 沙織

私は就職活動を始める前は、就職先が決まらなかったらどうしようと、とても不安でした。しかし相談した先輩より「行動せずに後悔するくらいなら、やりすぎて後悔した方がいい」とのアドバイスを受け、就活解禁直後から、遠方の説明会にも積極的に参加して「行動」し続けました。また、自分を適切にPRするために自己分析を繰り返し何度も行いました。小学生から大学生時までの各段階で頑張ってきた事、ぶつかった困難と対処法などを書き出すことで、知らなかった自分の「本質」を知る事ができました。この結果、自分の意見や考えをまとめ易くなり、面接での捻った質問に対しても戸惑う事なく対応できるようになっていきました。こうして準備と経験を重ね

るうちに当初の不安も小さくなり順調に就職活動を進める事ができました。

話は変わりますが、選考の最終段階などでは企業から課題を出される事もあります。私も困難な課題を与えられましたが、先生方から情報やアドバイスを頂いてなんとか乗り越える事ができました。最終的に4月に鈴廣蒲鉾本店より内定を頂きましたが、最後の最後に就職活動は個人戦とはいえ、周りの方々の助けを得ることも不可欠だと感じました。就職活動は大変ですが、自分を知り、成長できる良い機会です。皆さんの努力が実り志望する職場で働ける事を願っています。

## 就職活動を振り返って

生物生産学科4年 石田 健太

私が公務員試験のための勉強を始めたのは、3年生の10月下旬でした。入学以前から、水産技術職公務員という仕事に強い憧れを抱いていましたが、当時は受験するべきかどうかを悩んでいました。試験の難易度もさることながら、面接の配点が非常に高く、昔から人見知り・話下手・消極的の三重苦を抱えた私には、合格が不可能に思えたからです。

しかし、何を一生の仕事としたいかを何度も考える中で、水産技術職の仕事を諦めきれないことに気付き、それからは毎日試験対策に励みました。特に、苦手だった面接対策は、友人や家族、学校の先生方のお力を借りて、ただ合格したい一心で模擬面接を繰り返しました。苦しい時も多々ありましたが、周りの方々の励ましと、なんとしてでも夢を叶えたいという思いから、何とか最後まで粘ることができました。その結果、本年度の試験で無事、山口県庁か

ら水産技術職員として内定を頂くことができました。

就職活動は長丁場で、辛いことも多々あります。それでも諦めずに夢を追うには、相応の熱意が必要です。水産大学校を目指した理由は人それぞれかと思いますが、入学当初の初心や熱意を忘れずに、充実した学生生活を送って欲しいと思います。

## 就職活動を終えて

専攻科船用機関課程 濱野 武

就職活動を終えてとても重要だと思ったことは、自己分析です。入社試験面接があります。面接を受けるときには必ず「自己紹介」と「自己PR」がどの会社の面接にもあると思いますが、自己PRを面接官にするには自分という人間を知っていなければ出来ません。

私は本科と専攻科合わせて5年のうち計1年間の乗船実習で身につけた協調性、精神力と高校、大学のラグビーで培ってきた体力には自信があったため、このことを面接でアピールしました。

内定を頂いた会社は水産関係ということもあり、本校の卒業生に多く出会いました。また、自己紹介で「水産大学校です」と言う多くの方々から親切にして頂きました。これは本校を卒業した先輩方が水産業界で活躍されていることと、水産に深くかわり長い歴史のある本校のおかげだと思います。

これから就職活動始める学生へ、就職活動は非常に緊張して自分をしっかりとアピールすることが難しい場だと思いますが、自分を知っていればそんなことはありませんし、今後の糧になると思います。自己分析で自分という人間をしっかりと見つめ直し、今後の役に立ててみて下さい。

# 大 学 祭

## 海燕祭を終えて

2013年度学園祭実行委員長 海洋生産管理学科3年  
清水 拓

年に一度の水産大学校のイベントである海燕祭は長い歴史があり、学校と地域の方々との交流を大切にしてきました。私たち実行委員会は今までの伝統を絶やさずに、さらに盛り上がる海燕祭を作り上げようと一致団結し、無事に昨年10月12～13日海燕祭を開催することが出来ました。

今年の海燕祭テーマは「NO SEA NO LIFE」、海無しの生活はありえないという水産大学校ならではのテーマにしました。このテーマには私たちの海に対する思いを色々な方々に知ってもらいたいという思いが込められています。

2013年度海燕祭の開催に向け私達学園祭実行委員のメンバーは4月から活動してきました。新入生の勧誘に始まり、海燕祭の企画運営だけではなく地域のボランティアにも参加してきました。

海燕祭開催当日は好天に恵まれ、各企画大変盛り上がりました。一番人気のある名物の宝探しは今年度も大変好評であり、大人から子供まで皆さん楽し



んで頂けたと思います。また、フグ鍋の無料配布は先輩方から受け継いだ味付けで、とても美味しいと言って頂きました。用意していた100杯は1時間ほどで無くなり、私たちもとても満足でした。その他にも研究室公開や各種講演会も好評で、さらに怪我等の報告もなく、とても充実したイベントとなったと思います。

海燕祭の開催に伴い、本校の先生方、地域の方々など多くの皆様からご理解とご協力を頂き心から感謝するとともに、これからの学生生活を将来の夢に向かって有意義に過ごしたいと思います。

## 学生部だより ～各界で活躍する卒業生～

### 「大学生活と就職」

広島県漁業共済組合  
水産情報経営学科  
(現水産流通経営学科) 62期卒

杉本 慎太郎

私は水大を卒業後、広島県漁業共済組合に就職しました。漁業共済組合という名前を聞いて、ある程度想像がつくとしても、具体的に何をするのか分からないという人が多いのではないのでしょうか。私も就職が決まるまではそんな状態でした。そもそも「共済」と言えば、生命保険を連想するかもしれませんが、ここは生命保険は扱いません。漁業者が不漁や災害などで受けた損失を補填するためのいわば漁業に関する共済(=保険)業務を行っています。その中で私の仕事は、実際に漁協や漁港に出かけて漁業者に共済の説明をして加入者を増やすだけでなく、共済金を検討するための現場調査を行うことです。この調査では、市場で漁獲金額を集計したりしますが、時に本格的な海上作業もします。例えば、養殖筏に乗り込んで生け簀の中のタイの尾数を集計したり、船上でカキのへい死率を計算したりします。背広だけでなく、作業着と長靴を履いた作業は良い気分転換になります。



漁業共済組合は海に面した各県にあります。県によって違いはありますが、一組合あたりの職員数は10人未満がほとんどです。そのため、新規採用者数も少ないですが、漁協等のように漁業者のために働きたい人には、応募先として考えても良いかもしれません。

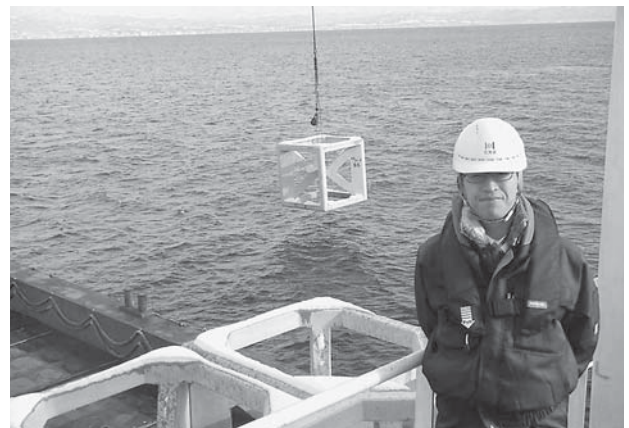
仕事につい

ては以上ですが、在校生の皆さんに伝えたいことがあります。私の学生生活は4年間+αでしたので、皆から「長い間、水大に通ったね」と言われます。入学前は漁師になりたいと思ってはいましたが、入学後は釣りばかりしていました。漁師の方と沖にでたこともあります。つまり、自分のやりたいことに必死でした。その中で、漁師になりたい思いは漁業関係の職に就きたいとの思いになりました。皆さんは、これから就職に関して悩む時期と思いますが、自分が希望する仕事にのみ固執せず、少し視野を広げて、関連業種も調べるのがコツだと思います。どこに就職しても、最後には、自分のこれまでの経験が必ず力になります。残りの大学生活を精一杯過ごして下さい。

### 1年を振り返って

北海道渡島総合振興局  
産業振興部水産課  
海洋生産管理学科 63期卒

塚野 拓人



私は平成25年3月に卒業し、北海道渡島総合振興局(旧渡島支庁)水産課に配属になりました。公務員志願者が多い中で、道庁上級職試験に合格できたことは、在校中に良きご指導をいただいた結果であり、感謝の念に堪えません。

北海道は本庁の他14の総合振興局及び振興局(旧支庁)があります。総合振興局及び振興局(以下振興局等)の内、水産課があるのは上川・空知を除く12の振興局等です。私の勤務する渡島総合振興局管内は12振興局等の中で漁業協同組合数・漁業者数が最も多く、水揚げ金額が3番目に多い水産業の盛んな地域です。

私が4月に配置された漁政係では主に水産制度金融の一部と統計を担当しました。制度金融に関しては私にとって未知の世界であり、道職員生活は大きな戸惑いとともに始まりました。金融は全くの素人でありましたが、上司や先輩の助力を得て徐々に業務を処理できるようになりました。ところが、その後11月から水産振興係へ配置転換となりました。この係では、新規漁場の整備や資源増大を図る為、

魚礁を作るなど水産土木工事の計画・発注・監督や、漁業生産の維持向上の為の事業を行っています。私は、ここで、2件の工事の監督、新規少額工事の発注のための業務に関わっています。しかし、未だに事務処理の手順すらよく分からず四苦八苦する日々が続いております。さらに、磯焼け対策やハタハタ産卵状況調査の企画などにも携わっていますが、会議では、何を言っているのか、調査では何をしたらいいのかよく分からず、参考資料等を読み、勉学に励んでいるところであります。しかし、このような業務においても、在学中は「このような勉強して何のためになるのか」と思うようなことでも、役立つことが多くあり、業務を進める上で大変助かっています。在校生のみなさんには、しっかり勉学に励んでいただきたいと願います。

### 母校を離れて……

宮崎大学農学部海洋生物環境学科  
製造学科  
(現・食品科学科) 43期卒

### 田中竜介

私は平成5年に水産大学校製造学科(現・食品科学科)を卒業後、平成9年から約15年間、母校である水産大学校食品科学科で教員として在籍していました。そして、平成25年より、宮崎大学農学部海洋生物環境学科に籍を置いています。水産大学校では私の後輩でもある学生の皆様ならびに教職員の皆様のあたたかい御支援のもと、教育・研究を行うことができたことをこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

さて、この「水学園だより」は在校生ならびに保護者の方へのメッセージと伺っていますが、特に、在校生の皆様に読んでいただけたら幸いです。皆様は生まれてから約20数年の間、人生の選択を何回か行ったと思いますが、その一つに水産大学校への進学があるのではないのでしょうか? 大学は人生の重要な岐路の一つであり、最後の学生生活を送ることができ社会に踏み出すための準備を行う所でもあります。ところでこの選択に満足しているのでしょうか? 卒業生である私だから言えることですが、



おそらく半数以上は別の道(大学?)を希望していたのではないかと思います。これは私が水産大学校に在職中に感じていたことであり、私自身、学生時代に感じていたことでもあります。その気持ちを未だに引きずっている人は今からでも遅くありま

せん。とにかく勉強して下さい。水産大学校は水産の専門知識を得ることができる数少ない大学であり、そこで得た知識は就職・進学に必ず役に立つはずです。久しぶりに「勉強しなさい」などと説教じみたことを聞かされたと思いますが、水産大学校で学生・教員として過ごした私が言うことですので、間違いないかと思います。私も自らの選択ではありますが四十半ばで職場環境を変え、新たなチャレンジを行っていますが、母校を離れた今、ふと振り返ると、学生時代にもう少し努力していたらと感じています。先輩の戯言になりましたが、皆様の心の片隅にでも留めていただけたら幸いです。皆様のこれからのご活躍をお祈りしています。

### 平成25年度合同企業説明会実施状況

本科3年生、専攻科進学予定の4年生および水産学研究科1年生を対象とした企業説明会が、下記のとおり開催されました。

全国から水産関連企業の人事担当者が遠路本校にお越しくださり、企業側、学生側から熱心な説明や質問が行われ、参加した学生からも好評を得ました。写真は当日の様子です。

#### 記

開催日時：平成26年1月25日(土)  
会場：体育館および多目的学生教育棟  
参加企業：82社  
参加学生：262名

